

金剛流  
昭和版

仕舞形附

第一輯

特260

790

9  
7

6  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14

始



特260  
790

坂戸金剛拾  
九代右近氏  
但遺稿據二  
拾三代右京  
氏慧心鈔校

奇き事ありぬ  
乃ちわれども  
能く事ふかま  
よみたり

脊ふき山

あよみ海を

遠く

中にあある

壹乃一本

右近  
氏但

凡例

夫仕舞ハ能ノ形ノ内主要ナル  
所ヲ一曲トシテ舞フモノナリ

先ツニ三人打寄りテ舞フ時ハ

一。二。三。ト順ニ出。即チ一ナル人左方へ

次ハ右方へ順ニ併ビ座シ扇ヲ抜キ

右ノ膝側ニ置ク

三。其時地謡モ右ノ如ク跡ニ從ヒ出

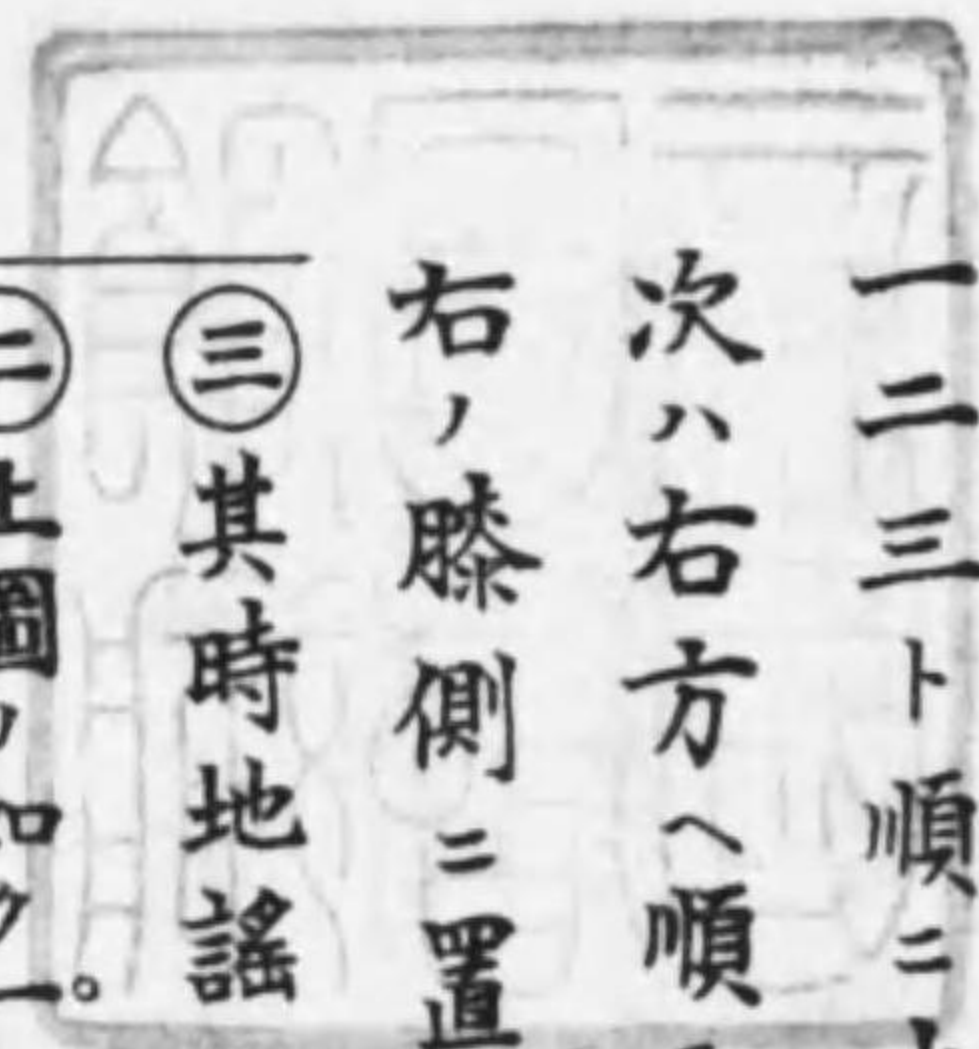
二。上圖ノ如ク一。二。三。ト後席ニ併座シ

一。扇ヲ抜キ同様ニ置ク皆座シ終レバ

前列ヨリ一同扇ヲ前ニ直シ置ク

(是禮ノ扇) 楮一ノ人ヨリ立チ二三

歩前へ進ミ右ノ膝ヲ立テ下ニ



居扇開ク物ハ開キテ構ヘル長刀  
杖ナドハ此時地唄ノ一人是ヲ持  
出テ一ツてノ右側ニ置キ座へ附ク  
始ノ一句ヲ一ツて唄ヒ出ス同吟ニ  
ナリ立チテ舞フナリ

又掛合ノ所ハ地頭唄フ又物ニ寄  
リテハ文句抜ク事モアリ本文  
ヲ見ラルベシ仕舞終レバ扇夕、  
ミ膝立替へ元ノ座へ戻リ着座  
ス次ニ二ノ人同様ニ立チ二三歩  
前へ行キ下ニ居テ唄フ事前ノ  
通りナリ順次仕舞終レバ皆  
同時ニ扇腰ニサシ長刀杖ナド

ハ此時前ノ如ク地唄ノ一人立テ  
来リ夫ヲ取リテ退場ス

先ツ右ノ方ノ地唄ヨリ退座ス、  
一ツてハ三ノ人ヨリ二一ト出タル  
時トハ逆ニ樂屋へ入ル尚此式作  
法、及ビ男女老若武者鬼物等  
ノ躰ノ構へ足ツカヒ等ノ區別ハ  
師ニ就テ委敷教ヲ乞ハルベシ

二十三代

昭和六年重陽 金剛右京

金剛流仕舞形附 第一輯

目次

熊	野 <small>曲</small> 一丁	葛	城 <small>切</small> 一丁
俊成忠度 <small>曲</small> 二丁	紅葉狩 <small>曲</small> 三丁	船辨慶 <small>曲</small> 四丁	春
盛	久 <small>切</small> 五丁	小	督 <small>切</small> 五丁
安	宅 <small>切</small> 六丁	七騎落 <small>切</small> 六丁	芦
芦	刈 <small>曲</small> 七丁	芦	刈 <small>切</small> 八丁
敦	盛 <small>曲</small> 九丁	敦	盛 <small>切</small> 十丁
羽	衣 <small>曲</small> 十一丁	羽	衣 <small>切</small> 十二丁
胡	蝶 <small>切</small> 十三丁	小	鍛冶 <small>曲</small> 十三丁
小	鍛冶 <small>切</small> 十四丁	那那	夢之舞
小	塩 <small>曲</small> 十五丁	唐	船 <small>切</small> 十六丁

西王母	現在忠度	猩猩	吉野靜	采女	源氏供養	杜若	葛城	龍田	班女	雲雀山	弄太鼓	蟬丸
十七丁	十八丁	十九丁	二十丁	二十四丁	二十六丁	三十丁	三十二丁	三十五丁	三十七丁	三十九丁	四十二丁	四十三丁
鶴	妻	東	半	楊貴妃	千手	六浦	三輪	雲林院	班女	飛鳥川	花形見	蟬丸
十七丁	十九丁	二十丁	二十二丁	二十五丁	二十八丁	三十一丁	三十三丁	三十六丁	三十八丁	四十丁	四十二丁	四十四丁

三井寺	柏崎	百萬	櫻川	網之段	駒之段	鶴飼	放下僧	小歌	花月	生田敦盛	錦木	松虫	富士太鼓	山姥
四十六丁	四十八丁	五十二丁	五十五丁	五十五丁	五十七丁	六十丁	六十三丁	六十三丁	六十四丁	六十六丁	六十九丁	七十二丁	七十三丁	七十六丁
柏崎	笹之段	櫻川	笠之段	海人	放下僧	自然居士	花月	生田敦盛	錦木	松虫	山姥	梅々枝		
四十七丁	五十丁	五十三丁	五十五丁	五十八丁	六十一丁	六十三丁	六十五丁	六十八丁	七十丁	七十二丁	七十四丁	七十七丁		

善知鳥	女郎花	鉄輪	枕慈童	浮船	梅ヶ枝
八十九丁	八十丁	八十四丁	八十二丁	七十九丁	七十八丁
船橋	大江山	葵上	邯鄲	天鼓	玉葛
九十丁	八十七丁	八十五丁	八十三丁	八十丁	七十八丁

熊野曲

扇其俣唄フ  
 寺ハ桂の檜桂ヤリ日  
 立子三足程出  
 右身ヲ入  
 左ニテ拍子一ツ  
 下モ河系  
 扇カコミ  
 扇開キ  
 上羽  
 上女  
 南を途  
 左ハニ  
 日  
 上リ  
 犬悲擁  
 後乃  
 扇カコミ  
 右ハ  
 熊野桂現の緋  
 ヒラキ  
 今ハ熊野  
 緋乃此山  
 右ハ廻リ  
 紅糸  
 青かりし  
 糸の秋  
 角ハ行  
 花の妻ハ清水  
 唯彩  
 左ハ大廻リ







世の花はうづら。かゝる女はよそ  
シカケ  
 世にも難い夜らふの山様こそ  
右、拍子四ツ  
 のえらる目も如何あらん  
サシマワシ  
上羽  
 思へどもこれとも  
扇尾キ  
 の葉り残らぬ深き情の交  
左、拍子  
 見へどもかたおれども道の辺に  
右  
 草葉のふゆれかごととも  
ヒラキ  
 枝を折むゆきを契るもせうか  
サシ角へ行  
 おつけお人の心は白雲の立  
扇下シシトメ  
扇カザシ  
左、廻リ

らへるなまじりか

弘永慶曲

扇其俣唄フ  
 弦ふ句踐か  
立チ  
 二度世を執り  
左拍子  
 繪巻の袖を雪だくも  
右拍子  
 陶楽切  
 を成すとやされば熱の根下  
右ラウケ正面へ出  
 にて政事を身は任せ  
ヒラキ  
 功名を  
角へ行  
 笑く世の如くなるべきを  
角トリ  
 切なり  
左、廻リ  
 名遂て身退く天の道と  
シカケ  
 志海へて小船は棹きりて  
上ラキ  
 五洲  
扇前(出)舟棹  
右(身)

正面(上)遠見キコト  
の巻を樂しむ 扇開キ  
上羽

例も清明の 左 月乃夜をみ 左

於て西海の波清き 股座(カイ)込

此斜の サシ出 ヒラキ 右へ廻リ

然も サシ角(行) 扇カサシ左へ廻リ

連ぬる 大小前(下)扇下シ シトメ

果心死

### 春栄 切

比 扇(兵)キ唄フ 志木も若縁り日 立チ 立や若縁の

親子に契り又は兄弟彼といひ 左ニサシ

是といふ何事も 右ニサシ右へ廻リ 睦

親子兄弟深なる事 大小前(下)右ヲサソイ(正面)出 シカケ

孝行を守り ヒラキ下ニ居(扇)腰ニテタ(コ) 三時(此)宴

合掌 扇開キ立チ左へ廻リ 比利生と伏し 親子兄弟

さもむつ 股座ニテ身ヲカ(大小)前(行)拍子ニ踏 正面(ヒラキ)

へこそ糸より 右(身)ヲ入片(シト)メ 左

### 盛久 切

酒宴 扇(兵)キ唄フ 立チ(正面)出(シカケ) 日 暑 クモ らぬ

日新長閑にて君を従ふ秋  
ヒラキ 正面カキ込サシ出  
 の霧が思ふ松の葉はちり春  
ヒラキ 下サシ込ワシ ヒラキ左足引  
 ぶして心木のかげら シキ 長兵  
下三居  
 思きあり 立チ 日 立チ 恐れ有りと  
角行 角トリ左廻り服座ヲ身ヲカへ大小前行  
 舞り カ 仕り カ 退か カ ける カ 感え  
小廻リヒラキ 右身ヲ入片シトメ  
 が カ び カ け カ 中 カ ぞ カ 勇 カ しく カ ぎ カ け カ

小督 カ

扇開キ唄フ  
 云のちもあはれ君の侍び  
目下 立チ四面シカケ ヒラキ  
 我らが身まで毛物思ひお

右拍子六ツ 服座へカキ込  
 立 カ 舞 カ ぶ カ べ カ ぐ カ も カ 何 カ ら カ ぬ カ 心 カ 今 カ ハ  
ガシ出 ヒラキ  
 却りて嬉 カ しさ カ 何 カ は カ 法 カ せん  
下二居 左右ノ袖ヲ撞ネ前へヨセシキ  
 夜 カ の カ さ カ ぶ カ 袖 カ 合 カ せ カ ば カ 舞  
立チ四面出 右方ヲ見左ノ袖ニテノリ込拍子ニ  
 だ カ 急 カ ぐ カ び カ も カ 勇 カ め カ り カ 弱 カ ぶ カ ら  
(馬乗志) 手綱ヲ曳キ心ヲ左へ廻リ  
 と カ 打 カ 舞 カ り カ 海 カ ら カ 姿 カ の カ 跡 カ を カ 歩 カ く  
服座ニテ左足引大小前行 右へ小廻リ  
 と カ 小 カ 督 カ は カ 見 カ 送 カ り カ 伴 カ 國 カ 都 カ へ  
四面ヒラキ右身ヲ入片シトメ  
 きて カ 我 カ を カ 陪 カ り カ せ カ 社

安定 カ

立 カ 舞 カ なる カ 心 カ 滝 カ の カ 水 カ 日 カ 照 カ とも  
扇開唄フ 立チ大左右



今ハ春色とさくやふをた樂へ

左拍子

一足出

珍ひたる仁徳天皇と少へを

右拍子

右ラ

絵ハ難波の清子れ業又

ウケ四面へ出

淡香山の言れ業ハ采女の壺

ウネノメサカシキ

泣教ぬ恨をのべ故とわ

シカケ

ヒラキ

け二家ハ今とこの歌れ父母を

角トリ

かへふ代々に暮死花文の云の

シカケ

ヒラキ

四面へ

業程のたれをうら我ら如き

シトメ

れ手習ふ始めなまべし

右へ廻リ

中へ

目ふ見へぬたよ練をも頼らげ

右マサンヒ四面へ出シカケ

ヒラキ

右へ身ヲ入

武士のむ慰むる主婦の情志る

上

キコミ

扇完キ

車も今身れよな如き

上 期 津のま乃難波の春は夏あきや

日

拍子一ツ

右へ

芦の枯葉よ風こころる波のま

日

拍子一ツ

右へ

舟の漂とても浅うるをり

上

キコミ

ヒラキ

は女の涙のま砂ハ海盡しを

下

マサシマワシ

ヒラキ

すとも此道ハなきや

右へ廻リ

サシ揃へ行

サシ揃へ行

遊ぶ名ハあや難波のうらみ

弱カサシ

左へ廻リ  
お忘れて有り契にお海りなふ  
縁を遊しうりきれ

同切

浮世忘る難波江の  
日立チ  
面出シカケ

下ヲサシマワシ見乍右へ廻リ  
声の着糸を裁ゆ白波も

常座ニヒラキ  
月も残りをも感には津のよれ

右へ拍子六ツ踏  
こやの煙居の冬ごもり今ハ

角行角トリ左へ廻リ  
春への都の空ふ残るを後る

服座ニテ身ヲカへ大小ノ前へ行  
大伴の津津の浦子の文を

拍子ニツリ込ニ面ヒラキ  
契りに帰るをこそ嬉しきれ

敷盛曲

痛其地唄  
引下  
残るふ平家  
世代残る二十餘

左拍子  
一足出  
年一減る音れさる夏の申

右ウケ面へ出  
なれや壽永の秋の糸の四か

右へ身ヲ入サシマワシヒラキ下ヲ見  
此岸も残るを教はなる葉の

拍子六ツ面ノリ込  
舟もうき浪もぬいで後ふ

角へ行  
だもも帰らぬ籠籠のやを

角トリ上ヲ見  
左へ廻リ  
悲帰し列を執るなる空定ぬ



なまき旅夜目も守成さ業なき  
一面シカケ  
 のまき返る春の頃け一の谷ふ  
小左右  
 蕨りて志どくハなま返るの浦  
赤コミ  
上羽 後の山風吹きあぐて母も返る  
拍子一ツ 海邊に舟のよるとなく登と  
右へ  
赤コミ 前知子もな声も我神も浪ふ  
扇下ケ立ナ右へ廻リ  
右足下ニ居枕一扇 志ありて旅夜目も守成さ業なき  
扇左へ取  
腹四面へ出 糸しては返磨んとのと破別  
扇左へハ不真中行右足引上ラ見扇右へ折  
 松のたつらや落るがり染と

左足引 糸しては返磨んとのと破別  
右へ小廻リ  
扇上ケ見 糸しては返磨んとのと破別  
左へ廻リ乍扇取直シ  
大小前ニシトメ 糸しては返磨んとのと破別  
ハツ 糸しては返磨んとのと破別  
 糸しては返磨んとのと破別  
悲しき

同 切扇二本ヲ用ニ一本ハ  
 太刀心ニテ腰ニサス

扇開キ唄フ 糸しては返磨んとのと破別  
立ナ四面出 橋掛方カラ  
見ぬリ 左へ小廻リ 橋掛向ヒシカケ  
 熊谷の比郎重実ヤ遊さど  
ヒラキ と遊遊たりヤ敷盛も馬引之  
一面ノ向両手ニテ手綱ヲ持ツ心ニテ右小廻リ  
扇ヲ腰ニテ振上ケ四面坐左足引ニツ切拍子四ノ踏ナガラ  
 浪のお物扱てニおさうあハ

弱兵キ右ニ身ヲ入  
 両手上ニ面ヲ踏込  
 おつとぞ入へら馬の上にて  
 組合ソリ返リシテ  
 右ノ膝ツキ下ニ居  
 引紐ぞ浪赤膝下居坐あつて  
 痛頭へ上ヤヲシへ安座  
 立キ右廻リ痛左ニ取  
 終ふ付きて失く糸の因果ハ  
 ツマミシテ柱ニ太カヌキ  
 照ノ前行左足引太刀振上ゲ  
 四り逢り敵ハ是ぞと討む  
 照ヲ見込ミ 跡ハサカリ  
 右ノ膝ツキ左ヘグワツシ  
 とするに仇をバ懸き法更  
 膝立カへ招へ向(膝ヲ割) 扇右ニ取  
 立チ  
 の意佛して吊らるるまき終よ  
 サシ右ニ廻リ  
 角ニテ身ヲ  
 ハ惟も生るべき同ト蓮の  
 直ニ大小前へ行  
 廻リ返シ  
 養生法師キ敵にてハあり  
 脇シカケヒラキ様ヲ扇腰ヲ合掌  
 たり跡吊らひてまき終へ跡  
 右ニ

身ヲ入  
 とおらひてたびおへ

羽衣曲

弱兵キ右ニ身ヲ入  
 両手上ニ面ヲ踏込  
 おつとぞ入へら馬の上にて  
 組合ソリ返リシテ  
 右ノ膝ツキ下ニ居  
 引紐ぞ浪赤膝下居坐あつて  
 痛頭へ上ヤヲシへ安座  
 立キ右廻リ痛左ニ取  
 終ふ付きて失く糸の因果ハ  
 ツマミシテ柱ニ太カヌキ  
 照ノ前行左足引太刀振上ゲ  
 四り逢り敵ハ是ぞと討む  
 照ヲ見込ミ 跡ハサカリ  
 右ノ膝ツキ左ヘグワツシ  
 とするに仇をバ懸き法更  
 膝立カへ招へ向(膝ヲ割) 扇右ニ取  
 立チ  
 の意佛して吊らるるまき終よ  
 サシ右ニ廻リ  
 角ニテ身ヲ  
 ハ惟も生るべき同ト蓮の  
 直ニ大小前へ行  
 廻リ返シ  
 養生法師キ敵にてハあり  
 脇シカケヒラキ様ヲ扇腰ヲ合掌  
 たり跡吊らひてまき終へ跡  
 右ニ

春霞 相討ふけり 又方の  
 月桂の花や さくさくさく花  
 かげら 女めく 春の志ありや  
 面白や 天ならで 雲も妙あり  
 玉津風 雲れ通ひ 海吹とらふ  
 乙女の姿 志どく 留まりて 花  
 松原の春 花を云 保が 花



空ふ又。梅月志如の影とあり。  
右へ廻リ  
 波野田海は去成乾。七寶光海  
右ラサノイニ面へシカケ  
 の寶をふらし。國は是を施  
角向扇左へ取ニ面へ出シ見ル  
 は。は。去。移。以。天の  
肩下シ左へ廻リ  
 羽衣。浦風。相。た。な。び。く  
ニ面ノ方ニツハネ扇ニテスラクト行扇内へ折コシ  
 三保の松。影。が。雲。の。ほ。し  
右足引面ツカヒ見  
 たり。山。や。富士の。嶺。出。ふ  
右へ廻リ乍扇右へ取  
 なりて。天。津。津。空。の。霞。は。紛。れ  
大小前々小廻リ扇下シ  
 て。失。ふ。を。ま。  
右へ身ヲ入片シトメ

胡蝶切

引下。春。夏。秋。の。花。も。空。で。  
扇開キ唄フ  
 雲。を。帯。く。る。志。ら。菊。は。花。枝  
シカケ  
 残。を。枝。を。廻。り。く。失。は。れ。や  
サシ角へ行角ニテ右小廻リニテ角トリ  
 小。車。の。法。よ。佛。果。に。逢。る。  
左へ廻リ  
 胡。蝶。も。秋。の。葉。の。影。の。お。の。  
東ノ方へシカケ  
 花。を。さ。や。春。の。歌。乃。  
扇打上ヒラキ上ヲ見  
 明。珠。雲。よ。明。珠。が。く。の。り。  
両手ニツ合セ  
 花。を。ま。祢。う。ち。か。を。て。花。よ  
角ニテ身ヲ直シ大小ノ前へ行  
サシ右へ廻リ  
廻リ返シ

ヒラキ 片レトメ  
終きそ 失ふたり

小瓶流曲

扇其俣唄ナカラ右ノ方出見 立テ正面へ出  
ツキ 剣拔く 一日 あらを  
シカケヒラキ様ニ扇ヲ上ケ 左ノ下ヲ見  
拂ひ忽ちふぎほれ かもま退け  
扇ニテ左ノ下ヲ拂ヒ又右ノ下ヲ拂ヒヒラキ右へ拍子四ツ  
と四方の草を薙拂へば母の  
精 気と成る。 右へ廻リ  
吹返されて。天に赫き地も充  
海で。猛火ハ反る敵を焼む  
救ふ強の夷ハ忽ち空にて

拍子一ツ踏ヒラキ見込

大小ノ前へ行 正面へ向

心家 邪しを忘れ志も。 草  
薙の故とらぬ 今汝が打ま  
片レトメ  
易くも思ひて 下向し 終へ

同切

扇其俣唄フ 立テ正面ノ先へ出右ノ膝ツキテ居扇ヲ  
神体時の身子なれ 小瓶と  
裏におあざや 打ま

ニテ柱方へ行正面向右へ出シ（又心ニ）トクト見ル  
傳劍の奴（心傳アリ口傳）を乱れさせられた

天の雲（扇ヲロシ）も是をまきおろす

東一の（返シ拍子六ツ踏跡フ返シ四ツ）二ッ路の徳劍にて

四海を治め強へば（右へ廻リ）お穀成乾

もけ時なきや（右へ身ヲ入）則汝が氏（脇へカイ込サシ）の

神（扇ヲ）縮糸の神（又心ニ）体小狐丸（左ノ方ニル様持シ）を

勅使（扇置心ニ）お捧げや（腰ニサシ跡へサガリ下ニ居）是迄成（ジギ）と

云（立テ）捨て（立テ）又（立テ）津（立テ）雲（立テ）よ（立テ）飛（立テ）糸（立テ）あり

や（又左へ飛廻リシテ往向クワシ）ま（立テ）さ（立テ）業（立テ）お（立テ）雲（立テ）お（立テ）流（立テ）の（立テ）ま（立テ）と（立テ）東（立テ）山（立テ）

右へ飛廻リ正面向下ニ居立テ身ヲ入左足引下ニ居ル  
縮糸の家（ヤ）にぞ帰（ヤ）り（ヤ）を（ヤ）終（ヤ）

那歌  
夏と舞

扇其俣唄フ  
めぐれや（ツレ）壺の流（ツレ）きハ（ツレ）菊水（ツレ）の

流（立チ）お（立チ）流（立チ）きて（立チ）疾（立チ）く（立チ）さ（立チ）れ（立チ）む（立チ）手（立チ）

お（シカケ）け（シカケ）さ（シカケ）ぎ（シカケ）も（シカケ）菊（シカケ）衣（シカケ）の花（シカケ）れ（シカケ）狭（シカケ）

を（右へ中廻リ）籠（右へ中廻リ）して（右へ中廻リ）指（右へ中廻リ）も（右へ中廻リ）流（右へ中廻リ）が（右へ中廻リ）光（右へ中廻リ）な（右へ中廻リ）れ（右へ中廻リ）お（右へ中廻リ）

壺（小左右）の（小左右）然（小左右）れ（小左右）也（小左右）も（小左右）空（小左右）ぞ（小左右）久（小左右）し（小左右）き（小左右）

ヨ（上羽）上（上羽）我（上羽）宿（上羽）の（上羽）一（上羽）く（上羽）菊（上羽）の（上羽）白（上羽）露（上羽）

今日（ウツク）毎（ウツク）よ（ウツク）炎（ウツク）世（ウツク）つ（ウツク）まり（ウツク）で（ウツク）舞（ウツク）と（ウツク）



シカケ ヒラキ 右へ身ヲ入  
 なきや志山カキ 是も又河川也  
ホコ 深し船の人れ公や 上羽 武蔵舟ハ  
 吟日ハお焼きて若草の 日下リ 葉も  
コト 蕨まき コト 我も海と 正面ヲサコシ 龍を公ハ  
ヒラキ 大系や サシマワシ 小境よ 右へ小廻リ 結く ト 通ひ ト 波の  
肩カサシ 乃束ハ 左へ廻リ 同ト ト 悲 ト 程の ト 雲 ト くれぬ  
肩下シ や今も シトメ 名 ト 若 ト 昔 ト 思 ト 果 ト ぞ ト 人 ト も ト い ト ぶ  
 唐 切 船  
肩胸吸フ 是 ト 陸 ト よ ト ハ ト 舞 ト 樂 ト よ ト 糸 ト ぞ ト 流 ト 日 ト 立 ト 子 ト 大 ト 左 ト 右  
 〱

正面サ込ミ 名残おし 肩ホ上ヒラキ(遠ク見)角へ行 ち ト 海 ト 面 ト を ト ぐ ト 放  
角トリ 行く 左へ廻リ 終 ト ぶ ト 振 ト ぐ ト ハ ト 進 ト 風 ト 船 ト ぶ ト ハ  
左右ニテ 舟の 正面へ出 袖の ト 羽 ト 風 ト も ト お ト ひ ト て ト も ト や  
サシ角へ行右(小廻リ)肩カサシ ならん 左へ廻リ 帆 ト を ト 引 ト け ト ぎ ト ぎ ト 船 ト 子  
肩ヲロシ だ 小廻リ 帆 ト を ト 引 ト つ ト れ ト て ト 船 ト 子 ト だ ト ハ ト 悦 ト び  
ヒラキ 勇 ト ぞ ト 身 ト 入 ト 片 ト シ ト ト ト メ  
身ヲ入片シトメ 勇 ト ぞ ト 身 ト 入 ト 片 ト シ ト ト ト メ

西王母 切

肩胸吸フ 花 ト も ト 碎 ト ら ト や ト さ ト ら ト づ ト き ト の ト 〱  
ホコ 手 ト 洗 ト 遠 ト ら ト 曲 ト 水 ト の ト 葉 ト り ト や ト 津  
右へ身ヲ入



正面、下ヲサシマワシ正面、扇下シ左ノ膝ツキ又左ノ袖ヲワシ  
 溝の水ニ戯ぶきたたるを弱  
立テ角ヘ行  
 女の袖も裳裾も多那むき  
右ノ小廻リ扇カガシ  
 柳の葉の花を春風よ和し  
左ノ廻リ  
 花の葉も移まば玉母も  
左右ニテ正面ノ出  
 花の葉も移まば玉母も  
角ニテ身ヲ直シ大小ノ前ヘ行  
 花の葉も移まば玉母も  
サシ角ヘ行  
 花の葉も移まば玉母も  
廻リ返シヒラキ  
 花の葉も移まば玉母も  
身ヲ入片シトメ  
 花の葉も移まば玉母も

露亀切

月夜に白衣の袂  
扇開キ唄フ  
 月夜に白衣の袂  
日立チ  
 月夜に白衣の袂  
ゲツ

露の白衣に袂の白く妙なる  
正面ノ出  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
右ノ廻リ  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
ヒラキ  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
サシ角ヘ行  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
扇カガシ左ノ廻リ  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
右ノ拍子六ツ踏  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
正面シカケヒラキ  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
右ノ拍子六ツ踏  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
サシ角ヘ行  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
右ノ拍子六ツ踏  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
サシ角ヘ行  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
左ノ廻リ  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
サシ角ヘ行  
 露の白衣に袂の白く妙なる  
左ノ廻リ



扇開キ唄フ  
ツル花のかざりも時めけて  
日 立チ 四面出

右へ身ヲ入サニマワシ  
蕙の四方にあはれとる神靈  
四面ヲカイ込サシ  
右へ拍子六ノ踏

北野よ移らせ給ふの  
実有難  
ヒラキ

や神と思。天長地久限りなく  
サシワケ角へ行

幾子代やぞもさかめく春乃  
廻リコシ扇カザシ  
左へ廻リ

いく千代ととも榮ゆまれば  
小廻リ

誓ひぞ驗さぬ  
ヒラキ 身ヲ入片シトメ

釋々切

ツルよか登り日  
立チ 四面出  
ヨダツ 幾代

シカケヒラキ

道乃竹の系れ海。汲ども  
右へ下ヲ扇キ一ツ汲ミ

空す然ども愛らぬ秋の  
扇ニ左手ヲ添ヒラキ様(春心ニ)両手ヲ上角へ行扇左取

夜に盃も顔かく入江よ  
四面へ出 踏サガリ

枯らけりしをよみ  
右へ膝ツキ下居枕扇

と酔ふ非とも松の夏の光  
扇右へ取

ると思へば泉ハ  
立チ 身ヲ入片シトメ

ぬ宿しむせがた  
ヒラキ

東水曲

扇其俣唄フ  
ヨ中 和ハ九ノ音  
立チ 左拍子  
東水の異地を

王城の鬼門を穿りけり。悪  
右拍子 右ツウケ  
 魔を拂ふ雲水のハ。水の上ハ  
左方見 一足ツメ  
 山陰のかけ川や。末志を川か  
右サシマワシ  
 波風もき。澄きひびたハ。帯  
直シ 拍子六ツ四面ノリ込  
 の縁をあふとや。や。庭ハ。池  
ヒラキ 目付柱 下ラツキサシ  
 水を流へり。や。香ハ。宿を池中  
角へ行 上ラ見 角トリ  
 の樹僧ハ。鼓く。月下の月。出入  
下ラ見 左へ廻リ  
 る。人。詠。救。む。の。袖。と。は。ら。糸。裳  
ヒラキ  
 裾を流て。色めく。有。旅。ハ。寒  
小左右 赤コミ

花の影あり。上。見。佛。洞。深。の  
扇尾キ 上羽  
 影。日。順。送。の。縁。ハ。い。や。や。り。に  
左 拍子一ツ  
 日。秋。然。暮。ふ。急。ら。ど。九。夏。三  
右 赤コミ  
 然。の。あ。つ。た。け。て。秋。味。は。かり  
ヒラキ 身ラカへ出  
 と。ね。ど。詠。う。ん。洞。底。の。柳。の。風  
ヒラキ 右へ廻リ  
 一。声。の。秋。を。催。し。て。上。求。葉  
サシ角へ行  
 提。の。機。を。え。を。池。水。に。映。る。月  
左へ廻リ  
 秋。ハ。下。化。急。生。の。相。を。得。たり  
ト相カサシ  
 赤。お。陰。湯。の。時。節。も。げ。あ。と

知られたり

吉野新曲

扇其俵 立チ 柞原時が 其後迄の水よき 左拍子一ツ  
右ラウケ 思へば 渡邊や 流るゝおよ海 出  
シカケ 漸の 送槽 立んと 浮舟の ヒラキ  
拍子六ツ 梶原が 中事よも 願義 ヒラキ  
角 ねむるゝ 行 されば 義経ハ 速よ  
角トリ 治めし 吉野の 神也 誓ひの 左廻リ  
真あらば 梶原が 家い ちる

あさね 義経 廻天の 勅を ヒラキ  
二面 更路 陽の 西南ハ 是ガ 分國と ヒラキ  
左拍子一ツ 成べし 治河ら ば 當山 此流 港 ヒラキ  
右 おもむく 糸路 一 依 操 ヒラキ  
右 柳の 心 袖よ 意こも 懐き ぬ ヒラキ  
右 べし 何あ りし こと 不忠 なる 終ふ ヒラキ  
右 おま 心 神ハ 心 一 ヒラキ  
右 流 流 中よ 於 極 深 して ヒラキ  
日 進 して 別 懸 終ふ たり 其 名 ヒラキ

笑ゆる人ごを縁を怨やほん  
身ヲカノ面ノ出  
 心ぞ思増尾籠の尾信忠  
ヒラキ  
 信ハならびお地精をぞよ  
右へ廻リ  
 人ぞも。防夫射られ強ふなも  
サシ角へ行  
 怨をむ実ハ流徒中よす  
左へ廻リ  
 む人ぞをなかりけき

半部曲

其頃源氏の弱其俣中將とせへん  
立テ  
 け夕貞のる枕唯姫の終

夜隣を御むよよふや  
右拍子 右ヲウケ圍心  
 精進のゝ声よそ南無南無  
シカサ  
 宗師ヒラキ弘毅佛もぞ唱へたる  
合掌  
 今もそお供お供おその時此  
左ニテシホル  
 思ひかぢらきてそ  
左へ廻リ  
 袂うお。猶まよりも忘れぬハ  
角へ行角トリ  
 源氏け宿をえ初めひら  
脇座ヨリシテ柱ノ作物シカケ  
 法を中惟光を招たよせ。かの  
弱閑キ作真中行脇ニ面ニ招キ出扇頭上ヲ作物ヲ教  
 苑折と宿へ直シ白き扇のほよ

いたなり焦コガしなりしふけ花を  
正面向腰又一足出深武棒を心面上ケテ羽ヲ下シ一足引作  
 折マてまらニもるニ源氏ハはシく  
正面向トクト見  
 とぶ鏡ミして二日おチ後ハも遠シ方  
左  
 だよトふトそトもトまトをト花トとト春  
左拍子  
 へハはハ終ハ志ラらデも有メ来ニに  
右  
 逢ヒよあハふキとハふハぬハをハ契ハの  
ホコニ  
 従レれハ妹ハとハおハりハ尋ハふハなハらハば  
サシ角へ行  
 実ハめハぬハ極ハのハけハ宿ハれハまハをハ誰ハと  
二拍カザシ  
 白ハ波ハのハよハらハべハりハ末ハをハ懸ハんハと  
二拍ト

采女曲

扇其傳  
 中ヨ着ニ城ノ大ト君ハ勅ハ下ト後ハがハひト陸  
カアラ  
 溪ハのハ母ハぶハ又ハ字ハ掛ハりハ後ハもハ塔  
立チ  
 車ハもハ踏ハりハなりハとハてハ後ハけハおハん  
一足出  
 どハ志ハさハりハたハれハどハ終ハもハあハど  
右拍子  
 やハらんハがハ君ハのハむハとハひハざハりハに  
右ヲウケ  
 采ハ女ハなりハらハらハ女ハのハ土ハ器ハをハし  
正面向出  
 言ハのハ系ハれハ家ハのハ情ハよハとハを  
ヒラキ  
拍子六ツノリ込

叔感<sup>ヒラキ</sup>込<sup>ト</sup>て<sup>ト</sup>暮<sup>ト</sup>し<sup>ト</sup>ニ<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>き<sup>ト</sup>バ<sup>ト</sup>浅<sup>ト</sup>  
角行ナガラ上ヲ見  
 唐<sup>ト</sup>山<sup>ト</sup>。朝<sup>ト</sup>さ<sup>ト</sup>へ<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>か<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>山<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>井<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>  
角トリ下ヲ見  
 浅<sup>ト</sup>い<sup>ト</sup>人<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>思<sup>ト</sup>ふ<sup>ト</sup>ふ<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>心<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>  
面直シ左ニ廻リ  
 花<sup>ト</sup>実<sup>ト</sup>け<sup>ト</sup>風<sup>ト</sup>が<sup>ト</sup>さ<sup>ト</sup>さ<sup>ト</sup>り<sup>ト</sup>雲<sup>ト</sup>  
一面、上ヲ舞ハサシマシ見  
 志<sup>ト</sup>河<sup>ト</sup>が<sup>ト</sup>ふ<sup>ト</sup>き<sup>ト</sup>安<sup>ト</sup>全<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>た<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>  
赤コシ  
 花<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>き<sup>ト</sup>バ<sup>ト</sup>采<sup>ト</sup>女<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>戯<sup>ト</sup>れ<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>日<sup>ト</sup>色<sup>ト</sup>  
上ヲ  
 音<sup>ト</sup>ふ<sup>ト</sup>梅<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>花<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>影<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>ぶ<sup>ト</sup>さ<sup>ト</sup>に<sup>ト</sup>  
拍子一  
 及<sup>ト</sup>ぶ<sup>ト</sup>雲<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>神<sup>ト</sup>氣<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>め<sup>ト</sup>ぐ<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>雲<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>  
拍子一  
 志<sup>ト</sup>持<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>清<sup>ト</sup>酒<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>折<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>ハ<sup>ト</sup>采<sup>ト</sup>女<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>

衣<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>大<sup>ト</sup>宮<sup>ト</sup>人<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>心<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>  
ヒラキ  
 衣<sup>ト</sup>襟<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>か<sup>ト</sup>ぎ<sup>ト</sup>に<sup>ト</sup>朝<sup>ト</sup>より<sup>ト</sup>夕<sup>ト</sup>ふ<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>  
左、廻リ  
 其<sup>ト</sup>後<sup>ト</sup>ど<sup>ト</sup>り<sup>ト</sup>声<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>何<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>  
一面、向ヒラキ  
 舞<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>曲<sup>ト</sup>拍<sup>ト</sup>子<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>採<sup>ト</sup>入<sup>ト</sup>使<sup>ト</sup>成<sup>ト</sup>  
右、拍子六ツ踏  
 舞<sup>ト</sup>し<sup>ト</sup>て<sup>ト</sup>花<sup>ト</sup>葉<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>花<sup>ト</sup>な<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>采<sup>ト</sup>女<sup>ト</sup>  
見左、小廻リ  
 の<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>ぞ<sup>ト</sup>妙<sup>ト</sup>なる<sup>ト</sup>

楊貴妃曲

我<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>佳<sup>ト</sup>者<sup>ト</sup>ハ<sup>ト</sup>日<sup>ト</sup>上<sup>ト</sup>界<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>諸<sup>ト</sup>仙<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>分<sup>ト</sup>  
扇其俣  
 佳<sup>ト</sup>者<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>因<sup>ト</sup>あり<sup>ト</sup>て<sup>ト</sup>候<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>人<sup>ト</sup>界<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>  
上立チ



左拍子

生れ来り揚家の深窓の娘

一足出

ソウカヤシナ

かきいさご知らんながらし

右ヲウケ

二面の出

君の目れつゝ意ざいおあ

シカケ

旅宮よ定め並みひ借を同

コウケク

右廻リカケ

定のかしらひも縁をぬき

ヒラキ

ヒラキ

徒よ又は噂よ空独り海

イッテ

二面シカケ

来りてすむむづの表をわ

ヒラキ

右拍子四ツ踏

身の遠れたよふふを

小左右

キコシ

こり新よ遠き夢むら

弱胸キ

上羽

去ふても思ひおれは恨ある

日左上

拍子二ツ右

その文月乃七日の夜君と

かむきし睡言の比翼連理

キコシ

の云れ慕もかれぐふな

ヒラキ

身ヲカノ二面の出

紅燈の巻れ下あのを契だよ

右廻リ

名残を思ふお智ひあふ

ヒラキ

そや年月別々様からせ

右拍子六ツ踏

中にもさらぬ罪なきのなかりせ

サシ角ノ行

ふ代も人よふ縁ひと海し

弱カザシ

左へ廻リ  
 来ともも遠れ得ぬ<sup>ト</sup>念者<sup>シヤ</sup>定<sup>ガク</sup>  
 離れとも<sup>シ</sup>笑<sup>ハ</sup>時<sup>ハ</sup>途<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>も別<sup>レ</sup>き<sup>ナ</sup>  
 ありきれ

源氏供書曲

引<sup>キ</sup>中<sup>ノ</sup>肩<sup>ノ</sup>其<sup>レ</sup>俣<sup>ト</sup>  
 空<sup>ノ</sup>蝶<sup>ノ</sup>の<sup>日</sup>む<sup>ア</sup>ら<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>び<sup>セ</sup>を<sup>立</sup>厭<sup>キ</sup>  
 て<sup>ハ</sup>ヤ<sup>ク</sup>良<sup>ク</sup>は<sup>シ</sup>海<sup>ノ</sup>の<sup>命</sup>を<sup>左</sup>観<sup>テ</sup>  
 右<sup>ヲ</sup>ウ<sup>ケ</sup>面<sup>ハ</sup>出<sup>ス</sup>  
 若<sup>ク</sup>は<sup>云</sup>の<sup>途</sup>入<sup>ル</sup>末<sup>ヲ</sup>持<sup>テ</sup>む<sup>カ</sup>の<sup>シ</sup>  
 ヒラキ  
 基<sup>ニ</sup>よ<sup>シ</sup>座<sup>セ</sup>は<sup>シ</sup>一<sup>ニ</sup>紅<sup>キ</sup>糸<sup>ト</sup>は<sup>シ</sup>笑<sup>ハ</sup>の<sup>秋</sup>  
 ヒラキ<sup>ト</sup>下<sup>ヲ</sup>見<sup>ル</sup> 角<sup>ノ</sup>行<sup>キ</sup>  
 乃<sup>ハ</sup>海<sup>ノ</sup>も<sup>も</sup>り<sup>や</sup>途<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>も<sup>佛</sup>意<sup>ト</sup>

一<sup>ノ</sup>途<sup>ノ</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>ハ</sup>柳<sup>ノ</sup>糸<sup>ノ</sup>の<sup>さ</sup>ら<sup>さ</sup>  
 肩<sup>ノ</sup>右<sup>ノ</sup>方<sup>ハ</sup>出<sup>シ</sup>見<sup>ル</sup>  
 性<sup>ハ</sup>生<sup>カ</sup>れ<sup>ば</sup>下<sup>ニ</sup>は<sup>上</sup>花<sup>ヲ</sup>散<sup>リ</sup>ふ<sup>ル</sup>  
 肩<sup>ノ</sup>開<sup>キ</sup> 上<sup>ノ</sup>羽<sup>ト</sup>  
 強<sup>ク</sup>とも<sup>も</sup>日<sup>ノ</sup>哀<sup>ノ</sup>別<sup>ノ</sup>離<sup>ノ</sup>苦<sup>ノ</sup>の<sup>理</sup>り<sup>ク</sup>  
 拍<sup>子</sup>一<sup>ツ</sup>  
 ま<sup>ぬ</sup>き<sup>が</sup>ら<sup>ば</sup>死<sup>ノ</sup>道<sup>ト</sup>と<sup>ら</sup>や<sup>ヤ</sup>  
 右<sup>ノ</sup> 岸<sup>ノ</sup>す<sup>べ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>ハ</sup>生<sup>カ</sup>れ<sup>ば</sup>流<sup>ル</sup>浪<sup>ノ</sup>  
 身<sup>ヲ</sup>カ<sup>ヘ</sup>面<sup>ハ</sup>出<sup>ス</sup>  
 須<sup>テ</sup>の<sup>浦</sup>を<sup>か</sup>で<sup>て</sup>四<sup>ノ</sup>智<sup>ノ</sup>園<sup>ノ</sup>へ<sup>向</sup>  
 ヒラキ 右<sup>ノ</sup>廻<sup>リ</sup>  
 の<sup>影</sup>を<sup>か</sup>浦<sup>ノ</sup>に<sup>標</sup>を<sup>立</sup>て<sup>し</sup>も<sup>も</sup>  
 右<sup>ヲ</sup>サ<sup>ソ</sup>イ<sup>ハ</sup>面<sup>ハ</sup>シ<sup>カ</sup>ケ<sup>テ</sup>  
 あり<sup>な</sup>ん<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ば<sup>途</sup>下<sup>ノ</sup>の<sup>香</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>む</sup>  
 ヒラキ ヨ<sup>モ</sup>キ  
 美<sup>ノ</sup>花<sup>ノ</sup>の<sup>影</sup>を<sup>か</sup>ら<sup>ば</sup>下<sup>ニ</sup>も<sup>佛</sup>意<sup>ト</sup>  
 橋<sup>ノ</sup>掛<sup>ノ</sup>松<sup>ヲ</sup>見<sup>テ</sup>掃<sup>ク</sup>  
 風<sup>ノ</sup>

の吹くとも云面へ向紫障の層をユウケン

清らユウケン車更静ニ云面ノ先へ出なす秋の風

消シカケむして紫塵ヒラキ様ニホトト拍子一ツ辱の友

簪左足ヲ見上品蓮左へ廻リ塵を目付柱へカイ込ミサシ出を懸て滅

あ左右ノ如クシテる七宝目付柱へカイ込ミサシ出花サシ右へ小廻リ慶の跡サガリ乍扇手拍子ま本サシ右へ小廻リ様の

本左足引扇ノ裏ヲ見と左へ廻リ乍扇取直シ秋かん小左右梅サシ右へ小廻リが枝サシ右へ小廻リのサシ右へ小廻リ自サシ右へ小廻リひサシ右へ小廻リまサシ右へ小廻リ

孫左へ廻リ乍扇取直シる我左へ廻リ乍扇取直シを左へ廻リ乍扇取直シ秋左へ廻リ乍扇取直シの左へ廻リ乍扇取直シ友左へ廻リ乍扇取直シを左へ廻リ乍扇取直シ紫左へ廻リ乍扇取直シ塵左へ廻リ乍扇取直シの左へ廻リ乍扇取直シ辱左へ廻リ乍扇取直シを左へ廻リ乍扇取直シ

無左へ廻リ乍扇取直シ象左へ廻リ乍扇取直シの左へ廻リ乍扇取直シ辱左へ廻リ乍扇取直シを左へ廻リ乍扇取直シ紫左へ廻リ乍扇取直シ塵左へ廻リ乍扇取直シの左へ廻リ乍扇取直シ辱左へ廻リ乍扇取直シを左へ廻リ乍扇取直シ

朝ヒラキ左拍子一ツのヒラキ左拍子一ツ梅ヒラキ左拍子一ツ種ヒラキ左拍子一ツ乃ヒラキ左拍子一ツ日ヒラキ左拍子一ツ淺ヒラキ左拍子一ツはヒラキ左拍子一ツ宿ヒラキ左拍子一ツりヒラキ左拍子一ツ木ヒラキ左拍子一ツをヒラキ左拍子一ツ

交ヒラキ左拍子一ツ死ヒラキ左拍子一ツはヒラキ左拍子一ツかヒラキ左拍子一ツさヒラキ左拍子一ツ位ヒラキ左拍子一ツをヒラキ左拍子一ツあヒラキ左拍子一ツづヒラキ左拍子一ツまヒラキ左拍子一ツやヒラキ左拍子一ツのヒラキ左拍子一ツ

肉ヒラキ左拍子一ツをヒラキ左拍子一ツ籠ヒラキ左拍子一ツへヒラキ左拍子一ツ入ヒラキ左拍子一ツるヒラキ左拍子一ツ樂ヒラキ左拍子一ツをヒラキ左拍子一ツもヒラキ左拍子一ツ業ヒラキ左拍子一ツ之ヒラキ左拍子一ツ成ヒラキ左拍子一ツ浮ヒラキ左拍子一ツ

毎マワシ角へ向ヒラキにマワシ角へ向ヒラキ諭マワシ角へ向ヒラキふマワシ角へ向ヒラキべマワシ角へ向ヒラキしマワシ角へ向ヒラキとマワシ角へ向ヒラキらマワシ角へ向ヒラキやマワシ角へ向ヒラキもマワシ角へ向ヒラキ精マワシ角へ向ヒラキ冷マワシ角へ向ヒラキ

のマワシ角へ向ヒラキ身マワシ角へ向ヒラキ成マワシ角へ向ヒラキべマワシ角へ向ヒラキしマワシ角へ向ヒラキニマワシ角へ向ヒラキ夏マワシ角へ向ヒラキのマワシ角へ向ヒラキ浮マワシ角へ向ヒラキ橋マワシ角へ向ヒラキをマワシ角へ向ヒラキうマワシ角へ向ヒラキ

あサツイ云面シカケヒラキはサツイ云面シカケヒラキりサツイ云面シカケヒラキ。身サツイ云面シカケヒラキのサツイ云面シカケヒラキ来サツイ云面シカケヒラキ迎サツイ云面シカケヒラキをサツイ云面シカケヒラキ影サツイ云面シカケヒラキふサツイ云面シカケヒラキべサツイ云面シカケヒラキしサツイ云面シカケヒラキ

南西方へ向合掌を西方へ向合掌や西方へ向合掌西西方へ向合掌方西方へ向合掌弥西方へ向合掌陀西方へ向合掌如西方へ向合掌來西方へ向合掌。狂西方へ向合掌言西方へ向合掌

倚サシ角へ行語サシ角へ行をサシ角へ行振サシ角へ行りサシ角へ行捨サシ角へ行てサシ角へ行紫サシ角へ行式サシ角へ行歌サシ角へ行がサシ角へ行

後左へ廻リの左へ廻リ世左へ廻リを左へ廻リ。た左へ廻リま左へ廻リを左へ廻リあ左へ廻リら左へ廻リ給左へ廻リへ左へ廻リと左へ廻リ諸左へ廻リ君左へ廻リは左へ廻リ

後左へ廻リの左へ廻リ世左へ廻リを左へ廻リ。た左へ廻リま左へ廻リを左へ廻リあ左へ廻リら左へ廻リ給左へ廻リへ左へ廻リと左へ廻リ諸左へ廻リ君左へ廻リは左へ廻リ

後左へ廻リの左へ廻リ世左へ廻リを左へ廻リ。た左へ廻リま左へ廻リを左へ廻リあ左へ廻リら左へ廻リ給左へ廻リへ左へ廻リと左へ廻リ諸左へ廻リ君左へ廻リは左へ廻リ

西手合拍子ニ踏  
心おぼしめて西向をまてふ  
終りぬ

千手曲

扇其俣  
今ハ粹ヲ。よしちからなし  
重傷も。少シ出  
心。細を。まきたる如く。老。逃れ  
兼。ら。淀。鯉。の。生。捕。ま。つ。  
河。越。の。子。ま。は。た。が。ま。に。わ。た。り。  
心。の。お。れ。た。入。り。上。羽。突。や。世。の。中。

日  
大左右  
定。あ。な。ま。さ。ら。が。神。を。月。時。雨  
み。り。お。く。奈。良。坂。や。流。流。の  
心。ま。渡。り。あ。ぞ。ま。ほ。も。角。お。も  
深。ハ。せ。ぞ。又。孫。念。に。渡。さ。る。  
心。ハ。何。も。ぞ。ハ。橋。れ。雲。井。の  
都。い。つ。又。三。河。の。國。や。幸。江。  
心。ハ。サ。ソ。イ  
足。梅。の。根。お。も。さ。て。心。ハ。出  
心。ハ。ト  
らん。星。月。数。孫。念。お。も。入。り。心  
右。拍。子。六。踏  
心。ハ。限。り。ぞ。と。お。も。ひ。た。に。別。れ

心憂む思ひ祢も哀れ昔と  
角へ行  
 思ひ盡の灯火くらふくして  
扇類へ當角トリ  
 救済虞氏が涙の雨を頻る  
左へ廻リ扇マロシ  
 夜空の四面に楚を声  
キコミ  
 の内何とぞ思ひ暮の袖思ひ  
大左右  
 越えやおぬらん涙を流して  
ヒラキ  
 思ひもも雪のふるえの枯て  
扇カガシ  
 だまり花もよもぬ袖ならば  
シトメ  
 空祢といざや思ひん  
左へ廻リ

杜若曲

羽其儘  
 花れども世の中は  
立チ  
 一交ハヤ義ある理の成なり  
右拍子  
 糸の糸束は任我求むと  
上ヲ見下  
 東に方よゆか雲の三停勢や尾  
右、身又と遠クサシマワシ  
 張の海げらふ立ッ波を見て  
一面へ一足出  
 いとしく道に〜方の意  
橋掛ヲ見帰リ  
 知よ義ありくも海を流るを  
角トリ  
 赤縁め好バ信濃なる海  
一面へシカケヒラキ様

正面上ラ見  
 の藏なれやゝも燃りの矢  
肩尻キ 上羽  
 ぐさき 上 扱しを信濃なる浅  
 左  
 るの藏よ立つかり日 遠近  
拍子一ツ  
 だのえやハとがぬと号  
チコミ  
 物なきの旅衣三河に國よ  
身ヲカへ正面上出  
ヒラキ 急ぐるを爰ぞ名よある八橋  
左足列下ヲサシマワシヒラキ見 右へ廻リ  
ヒラキ の沃地ふ自ら杜若花は葉は  
拍子六ツリ込ミ  
ヒラキ かるまなまらばはよりのと  
脇へ向  
ヒラキ 思ひぞがらぬ人 柵はお傍り  
中

身ヲ入  
 正ふまき車ながら。取  
正面上下カイ込サシ出  
 分は八橋や。三河に水の感  
右へ拍子六ツ踏  
 信あに 疾りし人女校に  
角へ行  
 名をえふをかへ人あり女  
角トリ左へ廻リ  
 玉のやま玉簾の光も花  
肩左ノ肩へ上ケ  
正面上ヨリ角込ノ上ラ見廻シ正面上出(堂ヲ見込)  
 きて飛ぶ堂の雲れ上遠  
角ニテ肩ヲ上テ上ラ見  
右へ廻リ  
 づくハ秋風ふけりしかりに影  
小左右  
サシマワシ  
 流生海度の我ぞとハヤ  
ヒラキ  
 いあや世の人れ 暗き心あぬ

拍子一ツ 大左右  
春の日の光りあま緑き月や

あらぬ春やむくのまなぬ

我身もむのハニヒトヒラキ  
角へ向肩左へ取

本覚素如の糸を分け陰陽の  
右へ廻り 脇正面へ出

神といもれしもな業平の  
肩へ不脇前へ行右足引肩右へ手折

車ぞかし。か松や物降疑  
左足引脇へ向拍子ニツ踏 左へ廻り不肩ヲ取直シ

はせ給ふる猿火をめぐりきぬる  
シトメ

六浦曲

三拍其後  
月日登て移きば爰も眺め  
立テ

うか。梅ハ敷一庭の面正候は  
脇正面へ

く郊のむの垣後や雪はまぐふ  
直シ

らん。時移り夏をれ秋も  
右拍子 正面へ出 シカケ

半よなりぬまば空定あたま  
角へ行 ヒニキ ツラサダ

むら時を。昨日ハ層たもみだ  
角トリ 左へ廻り 正面へ上見

紫もさ落志ぐれ候る山ハ下  
マワシ 赤コシニ肩ヲ元キ サシ

紫はらぬ爰ともやうたて去にても  
上羽

さらばある猿火の<sup>拍子一ツ</sup>あはれも<sup>右</sup>  
 ぶくた言の<sup>チカコ</sup>茶は露の<sup>チカコ</sup>晴よ  
 ぶきつ<sup>ヒラキ</sup>。女を<sup>脇向</sup>おまへ<sup>角行</sup>救<sup>ト</sup>くに  
 言<sup>廻リコシ</sup>義を<sup>扇カサシ</sup>かたに<sup>左廻リ</sup>徳<sup>ト</sup>過<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>縁<sup>ト</sup>を  
 き<sup>ト</sup>浄<sup>ト</sup>法<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>授<sup>ト</sup>希<sup>ト</sup>法<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>佛<sup>ト</sup>深<sup>ト</sup>の  
 縁<sup>ト</sup>とな<sup>ト</sup>し<sup>ト</sup>終<sup>ト</sup>へ

昔曲

昔<sup>ヨリ</sup>城<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>本<sup>ト</sup>れる<sup>ト</sup>ぶ<sup>ト</sup>光<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>福<sup>ト</sup>妻<sup>ト</sup>へ  
 山<sup>ト</sup>伏<sup>ト</sup>のお<sup>ト</sup>つ<sup>ト</sup>火<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>こ<sup>ト</sup>そ<sup>ト</sup>見<sup>ト</sup>れ<sup>ト</sup>

実<sup>右ラウケ</sup>や<sup>ト</sup>世<sup>ト</sup>の中<sup>ト</sup>へ<sup>四面出</sup>電<sup>ト</sup>光<sup>ト</sup>然<sup>ト</sup>露<sup>ト</sup>茶<sup>ト</sup>の  
 火<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>光<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>ぞ<sup>ト</sup>思<sup>ト</sup>へ<sup>ト</sup>た<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>  
 我<sup>ト</sup>身<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>歎<sup>ト</sup>き<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>み<sup>ト</sup>深<sup>ト</sup>へ<sup>ト</sup>  
 お<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>ひ<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>茶<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>焼<sup>ト</sup>か<sup>ト</sup>り<sup>ト</sup>よ<sup>ト</sup>  
 捨<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>茶<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>衣<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup>交<sup>ト</sup>深<sup>ト</sup>く  
 法<sup>ト</sup>よ<sup>ト</sup>む<sup>ト</sup>ハ<sup>ト</sup>華<sup>ト</sup>深<sup>ト</sup>乃<sup>ト</sup>禪<sup>ト</sup>心<sup>ト</sup>さ<sup>ト</sup>お  
 が<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>白<sup>ト</sup>妙<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>音<sup>ト</sup>に<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>笑<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>そ<sup>ト</sup>み  
 か<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>だ<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>條<sup>ト</sup>然<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>ほ<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>標<sup>ト</sup>哉<sup>ト</sup>  
 集<sup>ト</sup>め<sup>ト</sup>茶<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>焼<sup>ト</sup>き<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>風<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>お<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>く



左廻リ 葛城の山伏の名ふしおふ  
脇シカケ 片髪袖の松して身ヲを休め  
右身ヲ入 強へや西身を休め強へや  
片シトメ

三篇曲

扇其俣 引トされだけ人。夜に來れた登  
左拍子 是に或秋の睡ふ清身  
右拍子 いく故よより。秋年月を  
四面ノ出 送る身の登とば何と鷹羽  
シカケ 玉の夜ならで西は強をぬふ

シトメ いと不審多き事なり。只同  
一足出 ぬむとこ〜なんよ契脇ノ向とを  
身ヲ入 べしと有じかむが人の登りよ  
サシマワシ 振ぎふも髪ハ髪〜のみりて  
角ノ向 余怒よや知らまなん今より  
角ノ行 後の髪ふあど契りも今者  
左ノ廻リ 半りなりと怒オシロお清きば  
四面シカケ さんが別まの悲しきにぬる  
扇前ノ出シ見 知を忘らんをと小田巻よ

井をほけ。裳裾よ是をとら

付て必とおへて慕ひゆく

まご青柳の系長く 結ぶや速

玉れおのがかふらがふの系緑

うへに流程よこの山本に神垣

や杉の下校ふ留りたりけきまも

浅かりや契り人の姿をそよ

のこまげ流りにしより三痛の

志まじのまを地よを流るふ

休けで惚がらぬ

龍田曲

ツレ年毎よ紅糸を流る龍田川

港や秋のう海子なるよも訪

ざん海辺も波靜ふて樂

のみれ秋の夕名下を立因

山風も静か成りきを龍

ば代この歌人か心を添めて

長みち茶の龍田れ山の静

麓。春ハ紅糸にあら祓ども。  
左へ廻リ  
 只紅色ふめぞ。後へ今朝も。  
正面へシカケ  
 ハ龍田の橋多ぞ濃。夕日や。  
小左右  
 花の志ぐれあもらんと。縁。  
ヒラキ  
 にも紅井よむを深し。縁。  
チコミ  
 あり。神南後の侍室に。  
上羽  
 峯や流もらん。龍田の川に。  
左拍子  
 水ハ滑るを和光の影ハ明ら。  
右  
 き兒女如の月ハなほ照るや。  
チコミ  
ヒラキ

下ヲサシマワシ  
 龍田川をみぢら。龍を。  
ヒラキ見  
右へ廻リ  
 古ハ流の。今ハ氷の下。紅糸。  
身ヲ入正面下ヲカイ込ザシ  
 あら。流し。や。交。の。も。ち。重。縁。  
ヒラキ見  
サシ角へ行  
肩カサシ下ヲ見左へ廻リ  
 の。流。氷。渡ら。バ。紅。糸。も。氷。も。  
 重。ね。て。申。た。め。重。し。や。い。う。ぞ。  
シトメ  
 今ハ渡らん。

雲林院 曲

肩其候  
 二月や。あ。ご。お。な。れ。と。月。入。  
立チ  
 我らハ。あ。る。悲。路。の。あ。そ。む。く。  
左拍子  
チテ

一足出 右拍子  
 日のおれ。肉は名所といふ事ハ  
右ウケ四面へ出  
 しが大内はあり。彼遍忌はら  
下ヲサシマコシ  
 糸は花の若り後る。茂川をうち  
角へ行  
 渡り。思ひ知はもまじひやく。彼  
角トリ  
 分る衣ハ紅糸。籠衣。排の袴  
左へ廻リ  
 ふも志さた。誘ひがらや。冥界  
四面へシカケヒラキ下左ノ足ヲ見  
 籠のひももとむる。乃る袴。調り  
右へ身ヲ入  
 袴をかいたる。上羽  
上羽  
 袴をかいたる。上羽  
大左右  
 日 洞原志げる。木城色のを。袴衣

赤コミ  
 の徒を冠り。れ。中子に。赤袴き  
身ヲカへ出右へ廻リ  
 懸び。か。ら。や。二。月。の。黄。昏。月。も  
西ノ方へ箱ヲ上見  
 ちや。入。り。て。い。も。然。あ。ふ。袴。は  
サシ角へ行  
上ヲ見扇ヲ下ヲ見  
 春。夜。か。る。る。は。涙。も。袖。も。拂  
左へ廻リ  
 ひ。袴。も。あ。り。志。を。く。も。ま。じ。く  
シトメ  
 と。遊。り。く。も。ま。じ。ひ。は。

班女曲

扇其俣  
 中て ねめて。ぬ。ぬ。ハ。袴。き。だ。標。干。は  
日立チ右ノ方へ  
二三足出  
 立。立。して。そ。あ。の。空。よ。も。朝

エツクリト見廻シ

まきばや<sup>エ</sup>夕暮の秋風何らしよ

おろし世分<sup>キ</sup>もあ<sup>脇面ヲツキガシ一足出</sup>の松とてを

流<sup>左シヲリ</sup>るまき<sup>ウ</sup>が待<sup>ツ</sup>人よりの

音<sup>音</sup>流をい<sup>ハ</sup>河<sup>河</sup>き<sup>海</sup>は<sup>上</sup>て<sup>上</sup>素<sup>素</sup>て

毛<sup>左</sup>の飛<sup>左</sup>え<sup>左</sup>れ<sup>左</sup>麻<sup>左</sup>もよ<sup>左</sup>あ<sup>左</sup>れ<sup>左</sup>て<sup>左</sup>風

の使<sup>拍子</sup>り<sup>右</sup>と思<sup>右</sup>入<sup>右</sup>る<sup>右</sup>其<sup>右</sup>も<sup>右</sup>ほ<sup>右</sup>ま<sup>右</sup>ま<sup>右</sup>ま<sup>右</sup>あ

窓<sup>ヒラキ</sup>れ<sup>身ヲカへ出</sup>秋<sup>ヒラキ</sup>風<sup>ヒラキ</sup>冷<sup>ヒラキ</sup>や<sup>ヒラキ</sup>ふ<sup>ヒラキ</sup>吹<sup>ヒラキ</sup>流<sup>ヒラキ</sup>て<sup>ヒラキ</sup>獨

霧<sup>右</sup>の<sup>右</sup>麻<sup>右</sup>も<sup>右</sup>ま<sup>右</sup>な<sup>右</sup>れ<sup>右</sup>だ<sup>右</sup>名<sup>右</sup>を<sup>右</sup>使<sup>右</sup>ま

凄<sup>右</sup>ま<sup>右</sup>ど<sup>右</sup>く<sup>右</sup>て<sup>右</sup>秋<sup>右</sup>風<sup>右</sup>恨<sup>右</sup>あ<sup>右</sup>ま

お<sup>トエリ</sup>し<sup>トエリ</sup>や<sup>トエリ</sup>思<sup>トエリ</sup>べ<sup>トエリ</sup>だ<sup>トエリ</sup>ま<sup>トエリ</sup>も<sup>トエリ</sup>家<sup>トエリ</sup>を<sup>トエリ</sup>送<sup>トエリ</sup>ハ<sup>トエリ</sup>別

き<sup>ト</sup>成<sup>ト</sup>べ<sup>ト</sup>ー<sup>ト</sup>ぞ<sup>ト</sup>報<sup>ト</sup>ひ<sup>ト</sup>な<sup>ト</sup>れ<sup>ト</sup>が<sup>ト</sup>今<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>

世<sup>サシ角へ行</sup>も<sup>サシ角へ行</sup>人<sup>サシ角へ行</sup>を<sup>サシ角へ行</sup>も<sup>サシ角へ行</sup>恨<sup>サシ角へ行</sup>む<sup>サシ角へ行</sup>ま<sup>サシ角へ行</sup>ど<sup>サシ角へ行</sup>思<sup>サシ角へ行</sup>

い<sup>左</sup>れ<sup>左</sup>ぬ<sup>左</sup>牙<sup>左</sup>の<sup>左</sup>後<sup>左</sup>を<sup>左</sup>思<sup>左</sup>ひ<sup>左</sup>つ<sup>左</sup>け<sup>左</sup>て

獨<sup>シトメ</sup>り<sup>シトメ</sup>右<sup>シトメ</sup>の<sup>シトメ</sup>娘<sup>シトメ</sup>女<sup>シトメ</sup>が<sup>シトメ</sup>雨<sup>シトメ</sup>ぞ<sup>シトメ</sup>淋<sup>シトメ</sup>し<sup>シトメ</sup>ま

同切

上<sup>上</sup>月<sup>上</sup>を<sup>上</sup>隠<sup>上</sup>し<sup>上</sup>て<sup>上</sup>懐<sup>上</sup>ふ<sup>上</sup>持<sup>上</sup>つ<sup>上</sup>る<sup>上</sup>所<sup>上</sup>

細<sup>細</sup>衣<sup>細</sup>も<sup>細</sup>三<sup>細</sup>を<sup>細</sup>ま<sup>細</sup>ぐ<sup>細</sup>ら<sup>細</sup>孫<sup>細</sup>が<sup>細</sup>其<sup>細</sup>也<sup>細</sup>

ま<sup>日</sup>ぬ<sup>日</sup>の<sup>日</sup>つ<sup>日</sup>ま<sup>日</sup>れ<sup>日</sup>う<sup>日</sup>孫<sup>日</sup>言<sup>日</sup>



ぶども。さらば人ハ志ら玉の  
シカケ  
 思ひハ内ふがまどカコエ 及ふなどや  
小左右  
 然れぬ上羽 志にても謝し候  
扇開キ  
 玉といけふ日左 今ハ昔ふ  
 奈良板や拍子二ツ 兎のまがけの二  
右  
 おもて。巻もカク 痛はるまこと  
キコヒ  
 のよそ目ふ成てヒラキ 音城や高  
ヒラキ上ヲ見  
 天れ山の嶽カシラ 續き右一廻リ 爰も紀の  
常座ニテ  
 跡のさらびあふ常座ニテ 雲雀ふよ

ヒラキ  
 隠き扇ツマミ上ケ 花て出下 一足り様  
扇上ケ左右ト足リ下ヲ面ツカイ見  
 目跡もあた谷津の跡ハサガリ扇常ノ通ニ 鶴カシラ 舞カシラ 空  
持サシ角ヘ行  
 ならぬ扇カサシ 糸の左へ廻リ 舞カシラ ぶカシラ 舞カシラ ぶ  
シトノ  
 さらばシトノ 秋もシトノ 清シトノ やシトノ らシトノ ぬシトノ 内シトノ  
 身シトノ のシトノ 果シトノ ぞシトノ 舞シトノ ぶシトノ 舞シトノ ぶシトノ

飛鳥川 曲

扇其俣  
 清田を扇其俣 参り扇其俣 今日扇其俣 又月扇其俣 よ  
左拍子  
 なり左拍子 ふ左拍子 たり左拍子 い左拍子 そ左拍子 げ左拍子 や左拍子 早左拍子 苗左拍子  
右拍子  
 老も右拍子 こ右拍子 そ右拍子 ず右拍子 れ右拍子 実右拍子 や右拍子 五右拍子 月右拍子 ぬ右拍子 れ右拍子

四面出

これぬ日数もあり候。明日

と。いひそ。飛を。作の水。具

浅みどり。ま。運。れ。い。ぎ。や。極。り。よ

そ。も。り。幾。許。の。回。を。作。れ

む。か。郭。公。甲。子。山。田。張。を。斬。な

く。呼。ぶ。と。海。せ。も。城。あり

四。角。山。田。の。郭。公。山。田。は。い。ま。り

声。立。て。ほ。ご。と。ま。す。ぐ。る。世。の。中

乃。教。を。知。る。故。ま。時。の。ま。と。い。申。す

あり。上。五。月。山。指。と。高。郭。公

日。呼。く。音。を。ら。あ。る。意。や。ま。る

これ。も。悉。く。地。縁。り。史。の。所。方

も。知。り。で。あ。り。山。の。山。路。よ。速。ひ

里。ふ。い。で。と。ま。ぶ。浦。免。ぐ。る。日。也。

積。る。三。年。の。春。色。を。い。は。も。た。ぬ

五月。毎。の。ふ。り。け。髪。の。玉。り

川。ら。野。か。る。葉。は。い。は。ら。身。み

跡。衣。袖。沾。て。い。ぎ。り。子。苗。を





花形見 狂七

弱其俦 日立十正面出  
ヨ上 帰る せハ末世に及ぶ

身又入上ラカイ込サシヒラキ下ッ見  
いどキ 日月ノ地はおちず海

角トリ 散もせぬ花がさみを惹けぬ

ほらげ縁の土に落し縁を天の

咎めも忽に罽あさりぬひ

我如くなら狂気して赤れ物狂

ひと言ハれさせぬよな人よ

れさせぬよなか縁ふやせ

只現お花を蓮の証

言さやおぼせらん君もど

空頂ハ向ま子の心芽なれど

然毎の心勤めに花をま向

合堂 礼縁ハ南無や天照皇太神

宮天長地久と縁へを縁ひ

つし清子を念さを縁ひし

面縁の糸よ縁で忘れ形も

懐りや意や陸奥の浅

香花畑の花が川を日左廻る  
拍子ツ心を慈草乃右慈ぶも左指誰  
 故ぞみづれ心ハ君の家右愛よ  
脇面へ出来てだよ満てある月左の都ハ  
左名のとして袖も真中へ行後されども  
左足引肩ヲ出シ見又まほも取れども唯サシ角へ行佐み水の  
下ヲ見月を尋む猿の如く左にてシホリ味び  
身ヲ入片シトメかゝて泣き捨たり

蝉丸 道行

ヨ上扇其俵  
 花の粒を立出でて日立チ  
一面へ出うき音ふ啼くかかも川や  
サシマワシ末白河を打ちこり粟田は  
角トリ今ハ誰を左松坂  
脇座ノ方へ行や関のけ方と思ひ橋掛ノ方ヲ見帰りふ終なる  
ヒラキや音羽山の名残シホリヲ進ミの都や  
脇面に向拍子六ツノリ込ミ松虫は虫まきりヒラキ(團心)や  
左ニテサシ真中へ行なれも山科の黒人身ヲ入も終むなふ  
身ヲ入狂女あまきどむ清滝川と加



の床を<sup>左へ廻リ</sup>慮<sup>ユカ</sup>たて玉きぬの袖<sup>左へ廻リ</sup>に  
 かへて<sup>ト</sup>冷<sup>ヒヤ</sup>日<sup>ヒ</sup>おさ<sup>サ</sup>の<sup>カ</sup>影<sup>カゲ</sup>の<sup>ト</sup>跡<sup>ト</sup>  
 跡<sup>ト</sup>とて<sup>ト</sup>竹<sup>タケ</sup>の<sup>ヒラキ</sup>極<sup>キ</sup>の<sup>ト</sup>作<sup>ツク</sup>の<sup>ト</sup>垣<sup>ケ</sup>  
 静<sup>シヅカ</sup>も<sup>ト</sup>痛<sup>イタ</sup>も<sup>ト</sup>海<sup>ウミ</sup>づ<sup>ト</sup>なる<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>  
 床<sup>ト</sup>よ<sup>ト</sup>葉<sup>ハ</sup>の<sup>ト</sup>窓<sup>マダ</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>茶<sup>チヤ</sup>  
 蓮<sup>レン</sup>も<sup>ト</sup>古<sup>コ</sup>の<sup>ト</sup>跡<sup>ト</sup>に<sup>ト</sup>得<sup>ト</sup>成<sup>ト</sup>べ<sup>ト</sup>  
 た<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>〜<sup>ト</sup>事<sup>ト</sup>跡<sup>ト</sup>お<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>て<sup>ト</sup>ハ  
 日<sup>ヒ</sup>岩<sup>イワ</sup>ふ<sup>ト</sup>木<sup>キ</sup>の<sup>ト</sup>様<sup>サマ</sup>の<sup>ト</sup>声<sup>コエ</sup>と<sup>ト</sup>響<sup>ヒビ</sup>を<sup>ト</sup>  
 む<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>音<sup>ネ</sup>も<sup>ト</sup>た<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>〜<sup>ト</sup>花<sup>ハナ</sup>の<sup>ト</sup>

音<sup>ネ</sup>を<sup>ト</sup>弾<sup>ヒラキ</sup>ひ<sup>ト</sup>し<sup>ト</sup>む<sup>ト</sup>な<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>〜<sup>ト</sup>我<sup>ワ</sup>を<sup>ト</sup>  
 な<sup>ト</sup>か<sup>ト</sup>ほ<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>海<sup>ウミ</sup>の<sup>ト</sup>あ<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>音<sup>ネ</sup>を<sup>ト</sup>せ<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>  
 葉<sup>ハ</sup>を<sup>ト</sup>花<sup>ハ</sup>の<sup>ト</sup>影<sup>カゲ</sup>の<sup>ト</sup>ひ<sup>ヒ</sup>も<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>ふ<sup>ト</sup>時<sup>トキ</sup>  
 月<sup>ツキ</sup>の<sup>ト</sup>漏<sup>ヒラキ</sup>あ<sup>ト</sup>が<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>目<sup>メ</sup>も<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>事<sup>コト</sup>の<sup>ト</sup>  
 竹<sup>タケ</sup>の<sup>ト</sup>跡<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>月<sup>ツキ</sup>も<sup>ト</sup>跡<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>  
 ま<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>跡<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>思<sup>オモ</sup>ひ<sup>ト</sup>  
 や<sup>ト</sup>ら<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>思<sup>オモ</sup>ひ<sup>ト</sup>

三井寺道行

引<sup>ヒキ</sup>上<sup>カミ</sup>の<sup>ト</sup>秋<sup>アキ</sup>を<sup>ト</sup>捨<sup>スツ</sup>て<sup>ト</sup>行<sup>ユク</sup>ハ<sup>ト</sup>月<sup>ツキ</sup>も<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>

右、拍子四ノ踏

黒<sup>ヒラキ</sup>よ<sup>サシマワシ</sup>任<sup>ル</sup>じや<sup>ル</sup>愛<sup>ル</sup>入<sup>ル</sup>ほ<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>ふ<sup>ル</sup>人<sup>ル</sup>

の<sup>ヒラキ</sup>笑<sup>ル</sup>を<sup>キ</sup>知<sup>ル</sup> 唄ナガラニ面直シ よ<sup>ル</sup>し<sup>ル</sup>花<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>紅<sup>ル</sup>き<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>

日<sup>心面ノ出</sup>月<sup>心</sup>も<sup>心</sup>愛<sup>シカケ</sup>を<sup>心</sup>も<sup>心</sup>ふる<sup>心</sup>里<sup>心</sup>ふ<sup>心</sup>我<sup>心</sup>子<sup>心持</sup>の<sup>心</sup>

ある<sup>左ニテ</sup>なら<sup>シホリ</sup>ら<sup>シ</sup>バ<sup>シ</sup>回<sup>シ</sup>念<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>任<sup>シ</sup>じ<sup>シ</sup>よ<sup>シ</sup>から<sup>シ</sup>

お<sup>右ノ廻リ大小ノ前ノ行</sup>し<sup>シ</sup>い<sup>シ</sup>ざ<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>な<sup>シ</sup>海<sup>シ</sup>らん<sup>シ</sup>ん<sup>シ</sup>

帰<sup>右ノ歸リ脇ニ面ヲ見ル</sup>れ<sup>ル</sup>ば<sup>ル</sup>さ<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>波<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>志<sup>ル</sup>が<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>縁<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>

一<sup>上ラカイ込サシ</sup>つ<sup>ヒラキ</sup>り<sup>ヒラキ</sup>松<sup>ヒラキ</sup>葉<sup>ヒラキ</sup>子<sup>ヒラキ</sup>の<sup>ヒラキ</sup>影<sup>ヒラキ</sup>ひ<sup>ヒラキ</sup>な<sup>ヒラキ</sup>ら<sup>ヒラキ</sup>ら<sup>ヒラキ</sup>バ<sup>ヒラキ</sup>

松<sup>拍子六ツノリ込</sup>風<sup>ヒラキ</sup>も<sup>ヒラキ</sup>幸<sup>ヒラキ</sup>問<sup>ヒラキ</sup>ん<sup>ヒラキ</sup>ん<sup>ヒラキ</sup>松<sup>ヒラキ</sup>風<sup>ヒラキ</sup>も<sup>ヒラキ</sup>余<sup>ヒラキ</sup>ハ<sup>ヒラキ</sup>

厭<sup>角トリ</sup>ふ<sup>ヒラキ</sup>様<sup>ヒラキ</sup>笑<sup>ヒラキ</sup> ヒラキ 角ノ行 春<sup>ヒラキ</sup>な<sup>ヒラキ</sup>ら<sup>ヒラキ</sup>バ<sup>ヒラキ</sup>花<sup>ヒラキ</sup>園<sup>ヒラキ</sup>の<sup>ヒラキ</sup>

左ノ廻リ 面上 里<sup>ヒラキ</sup>も<sup>ヒラキ</sup>た<sup>ヒラキ</sup>や<sup>ヒラキ</sup>く<sup>ヒラキ</sup>ま<sup>ヒラキ</sup>だ<sup>ヒラキ</sup>る<sup>ヒラキ</sup>吹<sup>ヒラキ</sup>く<sup>ヒラキ</sup>風<sup>ヒラキ</sup>

脇<sup>脇ニ面ノ出</sup>ニ<sup>下ヲ見</sup>面<sup>大小ノ前ニ着足</sup>へ<sup>ス</sup>出<sup>ス</sup> 妻<sup>ヒラキ</sup>も<sup>ヒラキ</sup>き<sup>ヒラキ</sup>秋<sup>ヒラキ</sup>れ<sup>ヒラキ</sup>水<sup>ヒラキ</sup>の<sup>ヒラキ</sup>三<sup>ヒラキ</sup>井<sup>ヒラキ</sup>寺<sup>ヒラキ</sup>ふ<sup>ヒラキ</sup>

着<sup>心面ノ向身ヲ入</sup>よ<sup>ヒラキ</sup>け<sup>ヒラキ</sup>り<sup>ヒラキ</sup>み<sup>ヒラキ</sup>お<sup>ヒラキ</sup>で<sup>ヒラキ</sup>ら<sup>ヒラキ</sup>に<sup>ヒラキ</sup>あ<sup>ヒラキ</sup>る<sup>ヒラキ</sup>着<sup>ヒラキ</sup>

よ<sup>ヒラキ</sup>ら<sup>ヒラキ</sup>る<sup>ヒラキ</sup>

柏<sup>道</sup>道<sup>行</sup>

ヨ<sup>弱其俵</sup>上<sup>日立テ</sup> 裁<sup>右ヲウケ</sup>後<sup>脇座ノ方ノ向ヒ</sup>の<sup>イッダチダグサ</sup>函<sup>イッダチダグサ</sup>府<sup>イッダチダグサ</sup>ふ<sup>イッダチダグサ</sup>着<sup>イッダチダグサ</sup>く<sup>イッダチダグサ</sup>な<sup>イッダチダグサ</sup>ら<sup>イッダチダグサ</sup>く<sup>イッダチダグサ</sup>

人<sup>静ウニ出ル</sup>目<sup>静ウニ出ル</sup>も<sup>静ウニ出ル</sup>分<sup>静ウニ出ル</sup>ら<sup>静ウニ出ル</sup>ぬ<sup>静ウニ出ル</sup>我<sup>静ウニ出ル</sup>安<sup>静ウニ出ル</sup> 脇座ノ方ノ向ヒ 坐<sup>イッダチダグサ</sup>草<sup>イッダチダグサ</sup>の<sup>イッダチダグサ</sup>

い<sup>静ウニ出ル</sup>川<sup>静ウニ出ル</sup>と<sup>静ウニ出ル</sup>志<sup>静ウニ出ル</sup>ら<sup>静ウニ出ル</sup>ぬ<sup>静ウニ出ル</sup>む<sup>静ウニ出ル</sup>ち<sup>静ウニ出ル</sup>麻<sup>静ウニ出ル</sup>衣<sup>静ウニ出ル</sup>う<sup>静ウニ出ル</sup>ら<sup>静ウニ出ル</sup>

お<sup>静ウニ出ル</sup>と<sup>静ウニ出ル</sup>你<sup>静ウニ出ル</sup>程<sup>静ウニ出ル</sup>ふ<sup>静ウニ出ル</sup> 右ノ橋掛ヲ見歸リ 松<sup>静ウニ出ル</sup>陰<sup>静ウニ出ル</sup>を<sup>静ウニ出ル</sup>く<sup>静ウニ出ル</sup>淋<sup>静ウニ出ル</sup>

一まは常盤に里の夕べに

我またぐへて寝あるはげ里

子故よ身をまが志し世邊

のきど海の里とや海きだ

積らぬ泡雪の浅井といひ

是かとよ桐の花さく井の

上れ山を東にえあつて西よ

向へば音光寺の山影の跡院

如來よりねんかきておきぬ

みりて別きまを道守たむし

まを

同

霜其後 悲しむの涙 眼よさだん思ひの

煙り胸ふさゆづらぐそと案

むるに云思ふ流轉して終人終

の妾執の晴れ登き雲の場れ

月乃清影や照らき如平等

のうてなふる玉らんとなよも

歎ヒラキうばうて煩悩の標シラリをばら

きぬるぞ少カサき左下ト足リ罪障ヒラキ面直シの山上ラ見

なく生死下カキ込サシ見の海深サハナくうふと

してらげ生よ右ノ廻リげ身をサハナを浮ヒラキべんと

実歎ヒラキげども人右ノ拍子ニツるれ身シラリ三口シラリ四シラリ

意サシマワシ三キコミの十シラリれを多シラリかりた扇ノ元キ

上ヒラキされヒラキば初め乃清法大左右よ一日ヒラキ三ヒラキ夏ヒラキ

唯一ヒラキ心ヒラキ外ヒラキをヒラキ別ヒラキ法ヒラキをヒラキ佛ヒラキ及ヒラキ流ヒラキ

生ヒラキときくヒラキ時ヒラキは是ヒラキ三ヒラキをヒラキ若ヒラキ別ヒラキ何ヒラキ

疑ヒラキの有ヒラキべたや己ヒラキ身のヒラキ疎ヒラキ陀ヒラキ如ヒラキ

末ヒラキ望ヒラキ心ヒラキのヒラキ淨ヒラキ長ヒラキなるヒラキ盡ヒラキくヒラキ集ヒラキ

ぬヒラキべヒラキらヒラキばヒラキ浄ヒラキ寺ヒラキのヒラキ清ヒラキ池ヒラキのヒラキ蓮ヒラキ花ヒラキ

得ヒラキんヒラキ事ヒラキをヒラキなヒラキどヒラキかヒラキ無ヒラキらヒラキんヒラキ望ヒラキ

新ヒラキしくヒラキかヒラキ新ヒラキたヒラキのヒラキむヒラキ声ヒラキ外ヒラキちヒラキらヒラキのヒラキ

たまヒラキげヒラキ糸ヒラキ糸ヒラキがヒラキ絲ヒラキれヒラキ岸ヒラキよヒラキまヒラキるヒラキ

べヒラキしヒラキ拍ヒラキふヒラキしヒラキをヒラキ極ヒラキむヒラキあヒラキるヒラキあヒラキへヒラキ

数ヒラキ多ヒラキふヒラキ生ヒラキれヒラキ身ヒラキをヒラキ換ヒラキふヒラキのヒラキふヒラキ

なヒラキきヒラキやヒラキ實ヒラキのヒラキ池ヒラキのヒラキ水ヒラキ切ヒラキ徳ヒラキ池ヒラキにヒラキ





カケ左ノ手ヲ添ヘ左ノ廻リ  
首カクヤ牛ノ車れとこまふ  
何國をさして引もらんえい  
さらえいさらえい  
轆やくけ車  
目上テラキ  
物見なりく  
下真中ノ行  
実百義ガ

姿ハ日上シカケ  
おどろの如く靴を  
日廻り  
箆頭へ上げ

たる鳥帽子引くばき付テ  
又眉根をたれき  
角ノ方へ面ヅカヒ出  
びう澤鳥  
角トリ  
おどろの如く靴を  
日廻り

訪ひもねで思ひぬ人を尋ねて  
親子の契あさ衣  
日上  
箆上ケ面出  
結んで裾ふさげ  
裾をむせ  
上ラキ  
びて肩まかふる  
日  
右へ小廻リ  
造ぎれ  
箆カダゲ  
箆下シヒラキ右へ拍子四ツ踏  
下ニ居合掌  
萩薦の  
日下  
私達をあら南を  
立ケ  
秋か弥陀佛と信心をいそ  
右へ身ヲ入  
片シトメ  
も我子ふ逢ん為あり

百萬曲

窮其俣唄フ  
ヨト奈良坂や  
日  
兎のま拍れふと面  
テガシバ

とふも角もも倭火のあはれ  
右拍子 左拍子 一足出  
涙もに。袖の志がらみ際なきふ  
右ウケ 右ウケ 右ウケ 右ウケ  
思ひ定むる年波の流るる月の  
西 西 西 西 西 西  
新惜しき西の大寺に柳うげ  
西面 西面 西面 西面 西面 西面  
みどり子の影方あらぬ影の  
角 角 角 角 角 角 角 角  
おた別きていひちか知らむ  
世 世 世 世 世 世 世 世  
失よるも。下方あらぬ思ひ種  
右 右 右 右 右 右 右 右  
葉葉の露も青によし。常座にて右マサツヒ真中定出  
橋掛ヲ見帰り  
都を立おておつらふ雲山

佐保の川をお渡りして山城よ  
照 照 照 照 照 照 照 照  
井手の里も水は名のことと  
汗 汗 汗 汗 汗 汗 汗 汗  
新写る面うげ浅るおあぬなり  
右 右 右 右 右 右 右 右  
影と月日を送る来は羊の歩  
右 右 右 右 右 右 右 右  
際の際。足はほもく行く程よ  
右 右 右 右 右 右 右 右  
都の西とまはら。徳城野の寺  
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ  
に集りて四方はなまを。キコシ。扇尾キ  
上 上 上 上 上 上 上 上  
花の浮木の亀山や。日。雲よ  
上 上 上 上 上 上 上 上  
流る大井川。候よ。世のやが

かきやうりかひらき  
右へ廻リ  
嵐のふれ松の尾小倉の里  
左へ廻リ  
たぢもほげ小倉の袖  
かきぞ多きを衣を尖賤群集  
二面カキ込サシ  
おまけ寺は法を尋ね彼より  
二面へ向  
是よりも唯この寺ぞあり強き  
拍子一ツ  
かきけあきもかる身にたす  
一足出  
恐れあ身をた二佛の中間にれら  
少シ出  
かきの素ひある道りあらめん  
シカケ

あろとて 拍子九ツノリ込  
赤梅檀の号容やがて神力を  
サシワケ右へ廻リ  
現じて天竺衣且我朝三國  
小左右  
海り有強もは寺小現は強り  
キコシ  
上 安居の法とやすは母摩耶  
ヒラキ  
夫人の孝娘のお為なれハ佛も  
キコシ  
母を悲しひ強ふ道ぞか  
ヒラキ  
況んや人間の身としてなごらハ  
常座ニ身入  
母を悲しやぬと子ふを怨む  
ウラ

右ニサシ角ニ行  
身をかこち。感歎してぞ祈り  
左ニ廻リ  
ける。親子あふむの袖あまや  
百菊が舞を見給へ

梅川曲

引下 弱其俣唄フ  
実や年を経て。花の傍と  
左拍子  
なる水は。あぐるを。や。曇ると  
右拍子  
いふらん。誠教ぬれむ。後ハ  
茂よなる花と。思ひ志る身む  
ヒラキ 身ヲ直シ  
あはれ。我も。まなふを。むの  
心面ノ上ヲ心付

みとる。花と。あま。さ。れ。バ  
目付桂ノ上ヲ見スラノト出  
指より。いふ。あ。ぬ。る。花。お。れ  
左足リトヲ見(尤角トル心)  
ば。あ。で。も。水。の。あ。れ。と。い。さ  
左ニ廻リ  
白波のむよの。朝も。今ハ  
先だぬ。梅の。ハ。子。度。百。子。を  
右ニ廻リ  
む。ふ。あ。く。あ。く。身ハ。む。ら  
お。き。程。よ。涙。ま。れ。と。涙。を。憐  
下ノ心付弱キコロト  
と。あ。を。悲。し。め。る。む。な。り  
上羽  
お。に。も。あ。の。と。あ。い。と

日思ひわたり左 橋川の波を

て常陸常北左拍子がこむけり右

あなるを。あふなると水ヒラキ

をせたるを流してうた浪のヒラキ

花が志がらみかけあふをよけ右へ廻リ

なやまをともも木花咲耶常座ニ右へ身ヲ入テ面ヲカイ込サシ

の心律本のむあまへ風もぎヒラキ

て吹け水も船を滑まなと左へ廻リ

後を流し雲流をくもらかヒラキ

て花によらべの水せまをあて跡ニサガリ

さくら川よなさらよ細い段へツケル時ハ跡ニ下リシトナラセヌニ足ヲ立テタル俣跡ヲ

橋川 細い段

あさら橋花立テ 斜めあぞナシ出クツロキ

恨なるをもまへ風もほらヒラキ

ちれたをぞさそふシカケ 誘へばぞヒラキ

あをうづら日上行 ちかきてのち眺め左へ廻リ

いへ角トリ あ不青柳のいと様シカケ

あふふ日上行 かげ様シカケ

ヒラキ翁<sup>右ノ肩ノ上ケ</sup> 見え<sup>右ノ指子六ツ</sup> 三吉母<sup>右ノ指子六ツ</sup> あ<sup>右ノ指子六ツ</sup> よし  
踏返シハツ指子  
 母<sup>右ノ指子六ツ</sup> あ<sup>右ノ指子六ツ</sup> よし<sup>右ノ指子六ツ</sup> 母<sup>右ノ指子六ツ</sup> あ<sup>右ノ指子六ツ</sup> 川<sup>右ノ指子六ツ</sup> 渡<sup>右ノ指子六ツ</sup> 津<sup>右ノ指子六ツ</sup> 波<sup>右ノ指子六ツ</sup> の  
ホコミ(花ヲ指子ニ右足引翁ノ内ニ見乍足揃ヘ)  
 花<sup>右ノ指子六ツ</sup> を<sup>右ノ指子六ツ</sup> 摘<sup>右ノ指子六ツ</sup> り<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぬ<sup>右ノ指子六ツ</sup> 毛<sup>右ノ指子六ツ</sup> 一<sup>右ノ指子六ツ</sup> 玉<sup>右ノ指子六ツ</sup> 摘<sup>右ノ指子六ツ</sup> 換<sup>右ノ指子六ツ</sup> や<sup>右ノ指子六ツ</sup> か<sup>右ノ指子六ツ</sup>  
右ノ廻リ  
 ら<sup>右ノ指子六ツ</sup> あ<sup>右ノ指子六ツ</sup> し<sup>右ノ指子六ツ</sup> 又<sup>右ノ指子六ツ</sup> ハ<sup>右ノ指子六ツ</sup> 櫻<sup>右ノ指子六ツ</sup> 奥<sup>右ノ指子六ツ</sup> と<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぶ<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぶ<sup>右ノ指子六ツ</sup> な<sup>右ノ指子六ツ</sup> 所<sup>右ノ指子六ツ</sup>  
上ノ見廻シ乍脇ニ面ノ出  
 け<sup>右ノ指子六ツ</sup> ー<sup>右ノ指子六ツ</sup> ん<sup>右ノ指子六ツ</sup> 何<sup>右ノ指子六ツ</sup> き<sup>右ノ指子六ツ</sup> も<sup>右ノ指子六ツ</sup> 白<sup>右ノ指子六ツ</sup> 妙<sup>右ノ指子六ツ</sup> 花<sup>右ノ指子六ツ</sup> も<sup>右ノ指子六ツ</sup> 桜<sup>右ノ指子六ツ</sup>  
下ヲ右ニサシ脇ニ面ノ出 下ヲ翁ニテ右ヨリニ面ノ方ヘツ返シ  
 ち<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぎ<sup>右ノ指子六ツ</sup> も<sup>右ノ指子六ツ</sup> 波<sup>右ノ指子六ツ</sup> も<sup>右ノ指子六ツ</sup> 皆<sup>右ノ指子六ツ</sup> が<sup>右ノ指子六ツ</sup> ら<sup>右ノ指子六ツ</sup> に<sup>右ノ指子六ツ</sup> 摘<sup>右ノ指子六ツ</sup> ひ<sup>右ノ指子六ツ</sup>  
乍ニ面ノ出翁ニ左手ヲ添ヘ翁ノ内ヲトク見アケ(花ヲ捨テ)  
 集<sup>右ノ指子六ツ</sup> め<sup>右ノ指子六ツ</sup> 持<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぐ<sup>右ノ指子六ツ</sup> ら<sup>右ノ指子六ツ</sup> れ<sup>右ノ指子六ツ</sup> ば<sup>右ノ指子六ツ</sup> 是<sup>右ノ指子六ツ</sup> へ<sup>右ノ指子六ツ</sup> も<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぞ<sup>右ノ指子六ツ</sup> の<sup>右ノ指子六ツ</sup> 花<sup>右ノ指子六ツ</sup>  
角ニテ翁カガシ左ノ廻リ  
 お<sup>右ノ指子六ツ</sup> こ<sup>右ノ指子六ツ</sup> ー<sup>右ノ指子六ツ</sup> 我<sup>右ノ指子六ツ</sup> 身<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぬ<sup>右ノ指子六ツ</sup> ら<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぎ<sup>右ノ指子六ツ</sup> 摘<sup>右ノ指子六ツ</sup> 見<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぞ<sup>右ノ指子六ツ</sup> 意<sup>右ノ指子六ツ</sup>  
シントメ  
 波<sup>右ノ指子六ツ</sup> 我<sup>右ノ指子六ツ</sup> さ<sup>右ノ指子六ツ</sup> ー<sup>右ノ指子六ツ</sup> ら<sup>右ノ指子六ツ</sup> お<sup>右ノ指子六ツ</sup> ぞ<sup>右ノ指子六ツ</sup> お<sup>右ノ指子六ツ</sup> ひ<sup>右ノ指子六ツ</sup> ー<sup>右ノ指子六ツ</sup> き<sup>右ノ指子六ツ</sup>

芦刈 笠と般

翁<sup>翁其傍</sup> あ<sup>翁其傍</sup> れ<sup>翁其傍</sup> ば<sup>翁其傍</sup> 浪<sup>翁其傍</sup> ぜ<sup>翁其傍</sup> ー<sup>翁其傍</sup> 津<sup>翁其傍</sup> 津<sup>翁其傍</sup> の<sup>翁其傍</sup> 浪<sup>翁其傍</sup> よ<sup>翁其傍</sup>  
ユ立チ  
 網<sup>脇ニ面ノ向</sup> 子<sup>脇ニ面ノ向</sup> ー<sup>脇ニ面ノ向</sup> の<sup>脇ニ面ノ向</sup> よ<sup>脇ニ面ノ向</sup> る<sup>脇ニ面ノ向</sup> 網<sup>脇ニ面ノ向</sup> 系<sup>脇ニ面ノ向</sup> の<sup>脇ニ面ノ向</sup> 奥<sup>脇ニ面ノ向</sup> や<sup>脇ニ面ノ向</sup>  
一足ツメ  
 ー<sup>一足ツメ</sup> と<sup>一足ツメ</sup> 考<sup>一足ツメ</sup> を<sup>一足ツメ</sup> 来<sup>一足ツメ</sup> る<sup>一足ツメ</sup> ぞ<sup>一足ツメ</sup> や<sup>一足ツメ</sup>  
同上ニ面ノ向  
 名<sup>同上ニ面ノ向</sup> ー<sup>同上ニ面ノ向</sup> お<sup>同上ニ面ノ向</sup> ー<sup>同上ニ面ノ向</sup> 難<sup>同上ニ面ノ向</sup> 波<sup>同上ニ面ノ向</sup> 津<sup>同上ニ面ノ向</sup> の<sup>同上ニ面ノ向</sup> 浪<sup>同上ニ面ノ向</sup>  
ヒラキ  
 我<sup>ヒラキ</sup> にも<sup>ヒラキ</sup> 大<sup>ヒラキ</sup> 宮<sup>ヒラキ</sup> の<sup>ヒラキ</sup> 内<sup>ヒラキ</sup> 近<sup>ヒラキ</sup> 々<sup>ヒラキ</sup> の<sup>ヒラキ</sup> 網<sup>ヒラキ</sup> 球<sup>ヒラキ</sup>  
左ノ廻リ  
 す<sup>左ノ廻リ</sup> と<sup>左ノ廻リ</sup> 網<sup>左ノ廻リ</sup> 子<sup>左ノ廻リ</sup> ー<sup>左ノ廻リ</sup> の<sup>左ノ廻リ</sup> よ<sup>左ノ廻リ</sup> る<sup>左ノ廻リ</sup> 海<sup>左ノ廻リ</sup> 士<sup>左ノ廻リ</sup> の<sup>左ノ廻リ</sup> 味<sup>左ノ廻リ</sup>  
左右ニテニ面ノ出  
 び<sup>左右ニテニ面ノ出</sup> 声<sup>左右ニテニ面ノ出</sup> と<sup>左右ニテニ面ノ出</sup> 録<sup>左右ニテニ面ノ出</sup> 音<sup>左右ニテニ面ノ出</sup> を<sup>左右ニテニ面ノ出</sup> 古<sup>左右ニテニ面ノ出</sup> 考<sup>左右ニテニ面ノ出</sup> ー<sup>左右ニテニ面ノ出</sup> 球<sup>左右ニテニ面ノ出</sup>  
ヒラキ  
 網<sup>ヒラキ</sup> 球<sup>ヒラキ</sup> 目<sup>ヒラキ</sup> の<sup>ヒラキ</sup> 考<sup>ヒラキ</sup> ぶ<sup>ヒラキ</sup> ー<sup>ヒラキ</sup> ー<sup>ヒラキ</sup> 考<sup>ヒラキ</sup> ー<sup>ヒラキ</sup> 有<sup>ヒラキ</sup> 様<sup>ヒラキ</sup>







腰ヲ立肩右方出見

約束し下川の利叙を接待立十

正面スラト出拍子ニツリ込

ヒラキ上ヨ見

カククらの海底ふ花入む空ハ下川

右へ廻リ

左右サシカハ一足引両手ニツワケ見

よぶ雲の波をきふりの波を渡ぎ

ウツムケ正面先途出

足トメ面上ケ

下ヨ見一足ツメ

つゝ海慢と合りりて直下と

カク

左右ト足見廻カ

見れば底もなくおとりに

面直シ跡へシサリ

知らぬ海底おとも神渡が

両手合

正面、上ヨ見

心持アリ拍子一ツ

志らむとより得ん事ハ不定なり

シテ

脇正面出

正面ト脇座ノ向ノ向

新で終ふふりて宮中と

上ヨ見一足ツメ

えれば其字と二十丈の玉塔よ

ヒラキ

かの玉を志免お地香を渡

カイ込神シ

ヒラキ

お後神おハ終並居たる

ナシコワシ見乍角ハ行

お悪負鯨の口遊れ難しや

左へ廻リ

角トリ乍心持

我命さほが悉せれ故公の方

正面出橋掛ノ方ヲ見帰リ

オシナイ

ぞ意しきあの浪れおみおぞ

シテ柱ノ方ノ向其修歩ニ行

我子もあら後父大層もおは

常座ニテ正面ノ向

シホリ

らんさ家おこもげ修お別れ

思なんせしよと涙ぐもて

一ツ

合書キ

まじが又思ひ切りしよと念せ

拍子六ツ

南ぞや志波寺の観音菩薩壇

の力を合せよたび強へとも大悪

の利刃を頼るあて統ふれ中

ふ飛入むをたへ後とぞ退たり

けか其隙ふ宝珠を盗み取て

遁んとまれば守護神追愆く

兼て巧しし事なれば拵る

劍をえ盡し乳の下をかき切り

玉を押し籠め。劍を捨てて伏と

りらる統家の習ひふ死人を

怠めば。あたりには近付く悪統

なす約束の繩を執るばやんど

眠びり奉たりけり。玉知ら

む。誓人の海上よ浮ひかたり

鴉飼 鶴と敵

志ある。松明より立ち

衣の玉襟。鶴籠を穿た

出。日既。鶴の葉お飾り。意轉ども

右肩松明

ニッ振ル

日既

腰ノ肩ヲスキ関キ親骨ノ所ヲ左ニ持ツ

立チ左ノ方ニ出ル

六十

脇面  
目仕往ニリ下見  
踏込ニ肩ヲ放ル形跡ニサカリ松明上ケ  
は川波よ日ぬむりとも放せ

下見松明アリ面ツカヒ脇面出夫ヨリ  
日上ヨリ  
面白の有様や  
左下見又右ト下見松明下横振り

えから篝火よ驚く魚を逃  
追ナカラ左廻リ面ウカヒ  
下見松明アリ面ツカヒ脇面出夫ヨリ

廻し潜き上げ掬ひ上げ隙なく  
左肩下ニ跡ニサリ  
面直ス

魚を喰時ハ罪も報いも後の  
左肩ニ横ツキツ  
面直ス

世も忘れ果て面白や  
左足引遠々向ヲ見ル  
面直ス

水は流ならバ生簀の舞や  
松明フリ作左廻リ  
面直ス

のぶらん玉時川よ何ら様だ  
松明左肩上ケ右振り上ケ  
右ト下見

小點子渡る遊ばらボにかどみ  
面ツカヒ下ニ面先出  
面直ス

て臭ハよもなめどやうだや  
下見  
左足引松明ヲ

お篝火の燃ても糸の結く  
横ニツフリ松明上ケ  
下見

なからハ思ひがたり月も残  
跡ニ計リ作松明ノ肩腰ニサシ  
上下見

悲しきよ持糸のかぎり糸  
右ニテニシホル  
滑左中廻リ

消て雲は迷ふは糸の名残  
一退ツテ面直左肩右取作右廻リ  
右ニテニシホル

惜さといふをん  
右ニ身ヲ入  
左ニシトメ

放下僧曲

青陽の春は来よハ谷の戸が  
左拍子  
立テ

雪の氷を氷とけをめて  
一足出  
ユキ

舞の水はうたかたかふ相宿り  
右拍子  
 なる蛙の声聞はむのあら物を  
右ウケ圍心  
 目ふるぬ秋を風よ吹き秋の  
四面出  
 糸をよぐ古木の畑面よある  
角行  
左廻リ  
 下流て稻葉の雲は夕雨素  
四面シカケヒラキ上ヲ見  
 意うぬる秋涼乃たむむ月を  
右身入  
 山小見て指を忘る思ひあり  
箱見キ  
上羽  
 由良の湊の舟あはき日  
大左右  
 滑て登を捨て是をえ彼を笑

時ハ岩の嵐や谷の声短べの  
四面上ヲカイ出サシ出拍子ヒラキ上心  
右廻リ  
 煙り軽霞皆是三思唯心の  
サシ角へ行  
左廻リ  
 理りなるもと思ふ心を悟り  
上サセ  
 然へや

放下僧 小歌

扇其侍  
立上四面出扇持直見(筆心)  
 此面白也日中花の於や筆に書た  
東方ヲ見  
 及び東よは猿園清水流ち  
右小廻リ  
 東の遊の春母は岸小地まの  
サシマツ四面ヲカイ  
 様はちりぐゝ海は法橋磯磯の  
西方ヲ見  
左廻リ

西寺海ららハオモれ水車此

右ハ小廻リヒラキ拍子四ノ

痛乃井突左ノ手ニテノ川浪河柳ハ

サシマワシ見ル

水ヲ據ル下ヲサシ右ハ小廻リ鵜雀ハ竹ヲモ左ハ袖ニテ

右ハ真中ヲ持テ右ハ膝立テ下ニ居テ弱クテテ前出シ

母也(茶臼ノ模ナリ)の浪は風ヲ據ル立テ弱持直シ右ハ小廻リ両手ヲ合

批本拍子九ノ踏ヲモ海ヲサシワケノ様ニシテ角ニテカサシ見實誠左ハ小廻リ忘れた

りサシワケノ様ニシテ角ニテカサシ見もよ小切子ハ紋下左ハ小廻リニモ海ヲ

小切子拍子九ノ踏の二川の作の世サシワケノ様ニシテ角ニテカサシ見と量

ねてお治めたる清代サシワケノ様ニシテ角ニテカサシ見りお

### 自然居士曲

中二拍子黄帝二拍子のほ下二拍子よ二拍子貨秋二拍子といへる

士率二拍子けり二拍子或時二拍子貨秋二拍子を二拍子上二拍子の

池二拍子也二拍子面二拍子を二拍子え二拍子流二拍子を二拍子折二拍子り二拍子秋

の末二拍子なる二拍子は二拍子意二拍子を二拍子風二拍子ふ二拍子ぬ二拍子る

柳二拍子の二拍子下二拍子義二拍子水二拍子よ二拍子深二拍子む二拍子ふ二拍子又二拍子流

と二拍子い二拍子中二拍子是二拍子も二拍子虚二拍子空二拍子よ二拍子身二拍子なる二拍子ら

其二拍子下二拍子義二拍子の上二拍子よ二拍子身二拍子あり二拍子流二拍子る二拍子此二拍子身

く二拍子は二拍子無二拍子蟹二拍子の二拍子い二拍子と二拍子ち二拍子ら二拍子な二拍子く二拍子も

柳二拍子の二拍子義二拍子を二拍子吹二拍子来二拍子る二拍子風二拍子小二拍子流二拍子る二拍子

江戸ふかりし秋葉のまき来る  
ヒラキ  
 味の振舞実もと思ひ初めし  
シカケ  
 より歌むて船を造れり。黄  
正面出  
 帝是よみれく鴉を漕ぎ  
シカケ  
ヒラキ 渡りて虫枕を揚ぐ亡ぶた。  
右拍子六ツ  
サシ角 忠代を治め給ふ事一がハ千  
拍子一 歳とらや 上 能ればふぬの船は  
左 字を日 公ふ前むと書きり板又  
拍子一 天子の心解を龍舩と名付  
右

ヒラキ 舟より船を二つとよ事比  
右廻り  
サシ角 清字より始まぬり又君の清  
左廻り  
上 産船を龍頭鶴首と申さば  
シカケ  
シトメ 清代より記さるる

花月曲

靴 舟其俣一唄ノ  
立ツ 柳以寺ハ坂の上の田村丸大同  
左拍子 二年の春に草創ありし  
一足出  
右拍子 故来今も昔羽山。峯の下枝  
シカケ  
ヒラキ の清りに濁るともなれ清みの

ヒラキ 右ノ角上  
流きと流れが汲まざらん或時

正西ノ先ノ出下ノ滝ノ角 ヒラキ見  
け流の水又汲み入て煮たれば

角ノ行 角トリ左ノ廻リ  
まを極め山より入其水と尋ね

下ヲ見下右ノ廻リ 正西ノシカケヒラキ橋ナリ  
るふ山人志由せん岩の洞北

水の流きと程毛れと名清柳

の杉木あり其木より光りさし

寺コト 大左右 上羽  
異香四方よ薫まればうねは

疑ふ所なく日揚柳秋まの浦邊

にてまし海はくと皆人手を合せ

柏子ノ 手下シ  
程もそ奈持を。知をてたべと

右ノ廻リナカラ 扇 尾 サシ  
中をば杉木の柳ハ緑をなす様

角ノ行 扇カサシ  
ふ阿らぬを本と皆白妙は花

左ノ廻リ  
咲たりねこそよまの誓ひよハ

梅さる木よもを咲と今の世よ

でもやまなり

花月 切

ヨ中 扇其佐吸フ  
とられては山を日思ひやる

上立テ 正西ノ出シカケ ヒラキ  
こ我出づればやづ花葉にさ



の山。深きおもひ哉角トリ四王寺左漢

伎廻リよの松山降川むさぎの白峰。

按伯耆よの犬山シカケヒラキ右、廻リ。丹後

丹波の境なる忍が城とゆふ地味座より西手アケ腰正面、上ヲ見テ出

ハ天狗よりも怖くや手ヲ直シ。

京途を山左右ニテ出。岩の山

の志郎坊比良聖橋掛ノ方ヲ見テ歸リの志郎

坊名宗を比叡の大嶽よシテ柱ノ際ノ行右、廻リ腸正面、向ヒラキ拍子六ツノリ必

むの澄みと我月ヒラキは横川の

流ヒラキあは日頃二正面はあ処角トリよのこ角トリんで

や止トなんトと詠め左、廻リしに昔城カゲラや

宮間のやシカケ山ヒラキ上ヒラキ大家秋加の

嶽サシツメ正面先へ出富士の宮根右ノ足上ケス下シ左、袖付込拍子

起立チ時右、廻リもけり立チ程立チは狂立チひ立チたぐ

りて右、肩ヲ出シ見心右、手を右、手け右、手編右、手本右、手は右、手り右、手と

さら左、指折リと左、指折リ摺左、指折リて左、指折リハ左、指折リ唄左、指折リひ左、指折リお左、指折リて左、指折リハ

嶺左、指折リへ左、指折リ山左、指折リに左、指折リ登左、指折リる左、指折リ里左、指折リを左、指折リめ左、指折リぐ左、指折リり左、指折リ白左、指折リれ

むヒラキ何ヒラキのヒラキ傳ヒラキふヒラキなヒラキまヒラキるヒラキ娘ヒラキはヒラキまヒラキ

右へ肩出し見

肩振上り捨心一足り

今よりこの編みさしめと捨て

拍子四踏年肩尻服カイ込サシ出

たゆむはきあるは傷よ速

ヒラキ

サシ右へ廻リ

ふらむを佛道はきまら

廻り返シ

せむ佛道の修行おがるを

ヒラキ

右へ身又片シトメ

うきーかりきる

生田敦盛 曲

宿其俣嘆

引能るに平家の栄花を極めし

左拍子

其始めを列風月の滅き符

一足出

寄爰終の振ごとに春秋を送り

右拍子

迎下ふいう成あり来りきん

二面出

本音の機かけでだと思たぬ

歌よ流されて一歩の人を悉く

拍子六ツ

花の影を立が西海の空よ

遊まぬ習をぬ旅のなまがら

山を越海を渡り誓うはなよ

さかぶ都の住居れ身なりお

又立海を浦波の次たのお

踏や下の谷生田の森よ思し

かば<sup>シカテ</sup>暖<sup>ヒ</sup>は<sup>ヒ</sup>た<sup>ヒ</sup>も<sup>ヒ</sup>程<sup>ヒ</sup>を<sup>ヒ</sup>一<sup>ヒ</sup>と<sup>ヒ</sup>一<sup>ヒ</sup>の<sup>ヒ</sup>  
 人<sup>ヒ</sup>も<sup>ヒ</sup>悦<sup>ヒ</sup>び<sup>ヒ</sup>を<sup>ヒ</sup>な<sup>ヒ</sup>し<sup>ヒ</sup>志<sup>ヒ</sup>折<sup>ヒ</sup>り<sup>ヒ</sup>節<sup>ヒ</sup>ぶ<sup>ヒ</sup>  
 能<sup>ヒ</sup>頼<sup>ヒ</sup>義<sup>ヒ</sup>経<sup>ヒ</sup>の<sup>ヒ</sup>志<sup>ヒ</sup>勢<sup>ヒ</sup>が<sup>ヒ</sup>日<sup>ヒ</sup>左<sup>ヒ</sup>云<sup>ヒ</sup>や<sup>ヒ</sup>  
 衆<sup>ヒ</sup>の<sup>ヒ</sup>如<sup>ヒ</sup>く<sup>ヒ</sup>に<sup>ヒ</sup>て<sup>ヒ</sup>志<sup>ヒ</sup>づ<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>く<sup>ヒ</sup>戦<sup>ヒ</sup>ふ<sup>ヒ</sup>  
 と<sup>ヒ</sup>い<sup>ヒ</sup>て<sup>ヒ</sup>年<sup>ヒ</sup>家<sup>ヒ</sup>に<sup>ヒ</sup>運<sup>ヒ</sup>ぶ<sup>ヒ</sup>つ<sup>ヒ</sup>ま<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>  
 の<sup>ヒ</sup>矢<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>も<sup>ヒ</sup>む<sup>ヒ</sup>も<sup>ヒ</sup>弱<sup>ヒ</sup>と<sup>ヒ</sup>も<sup>ヒ</sup>強<sup>ヒ</sup>と<sup>ヒ</sup>も<sup>ヒ</sup>教<sup>ヒ</sup>り<sup>ヒ</sup>  
 ぐ<sup>ヒ</sup>に<sup>ヒ</sup>成<sup>ヒ</sup>深<sup>ヒ</sup>て<sup>ヒ</sup>志<sup>ヒ</sup>も<sup>ヒ</sup>深<sup>ヒ</sup>き<sup>ヒ</sup>生<sup>ヒ</sup>田<sup>ヒ</sup>  
 作<sup>ヒ</sup>の<sup>ヒ</sup>糸<sup>ヒ</sup>を<sup>ヒ</sup>捨<sup>ヒ</sup>て<sup>ヒ</sup>油<sup>ヒ</sup>語<sup>ヒ</sup>が<sup>ヒ</sup>さ<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>ぞ<sup>ヒ</sup>  
 よ<sup>ヒ</sup>う<sup>ヒ</sup>が<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>る<sup>ヒ</sup>ま<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>る<sup>ヒ</sup>

同 肩二本ヲ用ニ一本ハ  
 太刀ノ心ニテ腰ニサス

此<sup>ヒ</sup>あ<sup>ヒ</sup>き<sup>ヒ</sup>よ<sup>ヒ</sup>へ<sup>ヒ</sup>ん<sup>ヒ</sup>る<sup>ヒ</sup>ハ<sup>ヒ</sup>い<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>成<sup>ヒ</sup>者<sup>ヒ</sup>ぞ<sup>ヒ</sup>

何<sup>ヒ</sup>箇<sup>ヒ</sup>庵<sup>ヒ</sup>庵<sup>ヒ</sup>宮<sup>ヒ</sup>よ<sup>ヒ</sup>り<sup>ヒ</sup>の<sup>ヒ</sup>使<sup>ヒ</sup>と<sup>ヒ</sup>や<sup>ヒ</sup>  
 所<sup>ヒ</sup>村<sup>ヒ</sup>の<sup>ヒ</sup>作<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>れ<sup>ヒ</sup>る<sup>ヒ</sup>今<sup>ヒ</sup>身<sup>ヒ</sup>入<sup>ヒ</sup>  
 進<sup>ヒ</sup>途<sup>ヒ</sup>に<sup>ヒ</sup>箇<sup>ヒ</sup>王<sup>ヒ</sup>怒<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>せ<sup>ヒ</sup>給<sup>ヒ</sup>ふ<sup>ヒ</sup>ぞ<sup>ヒ</sup>と<sup>ヒ</sup>  
 り<sup>ヒ</sup>よ<sup>ヒ</sup>う<sup>ヒ</sup>と<sup>ヒ</sup>み<sup>ヒ</sup>ま<sup>ヒ</sup>を<sup>ヒ</sup>お<sup>ヒ</sup>し<sup>ヒ</sup>義<sup>ヒ</sup>也<sup>ヒ</sup>か<sup>ヒ</sup>  
 志<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>ざる<sup>ヒ</sup>終<sup>ヒ</sup>終<sup>ヒ</sup>の<sup>ヒ</sup>教<sup>ヒ</sup>天<sup>ヒ</sup>地<sup>ヒ</sup>を<sup>ヒ</sup>信<sup>ヒ</sup>る<sup>ヒ</sup>  
 志<sup>ヒ</sup>ら<sup>ヒ</sup>ざる<sup>ヒ</sup>終<sup>ヒ</sup>終<sup>ヒ</sup>の<sup>ヒ</sup>教<sup>ヒ</sup>天<sup>ヒ</sup>地<sup>ヒ</sup>を<sup>ヒ</sup>信<sup>ヒ</sup>る<sup>ヒ</sup>





不度よ成べ徒ふ我も何事よ  
常座ニ右ヲサソヒ脇座ニ行  
 立右足引扇頭上ケカクゲ下ニ居  
 立左廻リ  
 神の泪乃たたまふもななど  
脇座ヘカイ込  
 又へ強をぬぞさうていけが三  
右ハ拍子四ツ  
 兼ハみぢぬ意つきがぐりぬ  
サシヒラキ

同切

扇をよむい日  
立チ  
 心面へ出  
 妹宵の嫌立るハ強本手折拍子  
身ヲ入股座ヘカイ込サシ拍子扇右ニ手折拍子  
 細布の日上とるも立チ右ニ廻リ乍扇左ニ取リ角方ヘ  
左足引下ニ居

扇出見出  
 盃ぶらゆきて有暇の紙心紙  
脇座ニ出扇内ノ折紙ニ  
 流るるやなりかん  
右ニ廻リ乍扇右ニ取  
 是めぬさ知し我も友人ある物  
サシ角ニ行  
 角トリ左ニ廻リ  
 ともあなを強本も細布も  
脇座ニ身ヲカヘ大小前ニ行  
 髪も破れと松風紙たる朝  
拍子ニツ 右ニ廻リヒラキ 右ニ身ヲ入片シトノ  
 の原聖中れ塚とぞぬを  
サシヒラキ

松虫 曲

一樹の蔭の宿りも他生の縁も  
ヨシ  
 物と一河の流き汲て志るを  
立チ  
一足出

浅くらめや 拍子 目付柱の方ヲ見丈より脇に面出  
 兼の水汲めども 下ノ拍子下ニ括 右ノ下ヨリノ汲ニ立テ両手ニ持テ見  
 流水の盃は 一又出 シトメ オリ 遮れるはあり  
 されば意ふの古 扇タニ角ノ行 へ虎溪をまらぬ  
 室の戸は 角トリ 其戒めを破りしむ 左ノ廻リ  
 心ちしを浅くらぬ ヤ 思ひの象の ミカケ  
 玉水は ヒラキ 戒石を出し 右ノ身ヲ入 道と キコシ かね 拍子  
 上 上ノ羽 それハ 上 賢れた 左 古への 上 世 上 だけ  
 心さへて 拍子 道 右 ある友人のかずく

積石の キコシ 餘慶家 トリ くに ヒラキ 善く ヒラキ 廣き  
 左 左ノ廻リ 常座 右ノ廻リ へ行 右 常座 右 へ行  
 拙き我ら 右 不て 右 心も 右 後ろ 右 かね 右  
 兼を 右 海へ 右 竹 右 糸の 右 世 右 ハ 右 砕り 右  
 清らハ 右 我 右 独り 右 醒 右 も 右 せ 右 で 右 兼 右 本 右  
 とき 左 ね 左 糸 左 を 左 たり 左 だ 左 ね 左 む 左 の 左  
 独寐 左 友 左 を 左 待 左 ち 左 碎 左 を 左 な 左 して 左  
 兼 左 奏 左 で 左 拵 左 む 左 ん 左

同切

此おとろぬ。ふ草の葉は雲に

立ッ左右ニテ 機ねる右ニテ 雲左ニテ 霧右ニテ 霧左ニテ

ちやう一日 直ニ 霧左ニテ 霧右ニテ

下ニサシ 下ニサシ 右ノ廻リ 霧右ニテ 霧左ニテ

の中右ニテに左ニテ 霧右ニテ 霧左ニテ 霧右ニテ 霧左ニテ

右足列間心 左ノ廻リ 霧右ニテ 霧左ニテ

霧右ニテの左ニテ 霧右ニテ 霧左ニテ 霧右ニテ 霧左ニテ

上 霧右ニテの左ニテ 霧右ニテ 霧左ニテ 霧右ニテ 霧左ニテ

浅右ニテ 霧左ニテ 霧右ニテ 霧左ニテ 霧右ニテ 霧左ニテ

友人名残の袖を振る尾花の

涙小見へに泣きたへる。草花は

なまけよとのふれ草花はなる

朝の系虫は音半りや残る

らんむしの音をならぬぬひ

からん

富士古報

持たる振をば舞と定ぬ

志意の火を古報の烽火と



天よよれは雲れ上人（先出下ノ邊ノ箱）後（左ノサカリ）の留  
 土おろしに絶ぞ孫まきて（右ノ小廻リ）福  
 母の様。四方へ教と教り（サシワケ面ヅカニ）と  
 交へん（右ノ拍子ノ六ツ踏）花をさす（左ノ廻リ）も（ヒラキ）  
 伶人の舞なれば（左ノ廻リ）お報の後ハ  
 中よりまごめを名の下空し（右ノ面ノシカケ）  
 からん（ヒラキ）類ひなや（心持）懐かし（ウツロギ）ね（右ノ箱足）  
 ぎふや（ロシギ）女人の恵む（上）乃（ヒラキ）煩悩の  
 雲晴て（右ノ面）五常樂を（シヤウ）お給へ（ウツロギ）

修羅のお報ハ（上）おや（ヒラキ）ぬ（右ノ面ノカキ）この  
 君乃（サシヒラキ）薄壽千秋樂を（脇ノ向）うたう（一足出拍子一ツ踏）よ  
 扱（右ノ行）又ふ代や（左ノ廻リ）業代と（ヨロヅ）民も業て  
 安穩ふ（角トリ）下（左ノ廻リ）太平樂を（ウツロギ）うたう（ヒラキ）よ  
 日も（日下）既よ（西ノ方ノシカケ）傾きぬ（右ノ箱）山（上）の  
 場を（両手ニテニツ招キ出）眺やりて（右ノ廻リ）招き返（ヒラキ）を（先ニテ）おれ  
 手の（右ノ廻リ）嬉しや（ヒラキ）今も（ヒラキ）思ふ（ヒラキ）歌ハ  
 おたれ（右ノ面ノ先）う（ヒラキ）さ（ヒラキ）き（ヒラキ）て（ヒラキ）者（ヒラキ）を（ヒラキ）や（ヒラキ）出（ヒラキ）を  
 らん（右ノ面ノ先）我（ヒラキ）よ（ヒラキ）は（ヒラキ）晴（ヒラキ）る（ヒラキ）胸（ヒラキ）の（ヒラキ）を（ヒラキ）お（ヒラキ）り（ヒラキ）

笛土が怒るをさらせば海は  
うへふりのきれ

山姥 曲

宿をなく。只を水と使ひおこ。  
足らぬ山の奥もなし。結れば  
人間は非として。隔つる雲の身を  
かへぬ。自性を變化して。一  
化すの忍女と成て。目茶よ来れ

とも邪正一如と見え。時ば色即  
是空。其後よ。佛法のき。世法  
あり。煩惱のきを。其提あり。ヤ  
佛のれを。生あり。生あり。きバ  
山姥もあり。柳の縁。花ハお井  
の文。人同小遊。事或時ハ  
山賤の推路。よ。花ハ陰。休む  
重荷よ。肩を貸し。月法をに  
山を出。里近。送る。を。あり。

中大左右<sup>ト</sup>三<sup>ニ</sup>面<sup>ハ</sup>止<sup>ス</sup> 二面一カサシ出リ込  
 又或時ハ織姫の五百機たり<sup>ハ</sup> 拍子ニ踏ヒラキ付シ角ノ行ハ角トリ  
 窓よ入<sup>テ</sup>枝の管系<sup>ハ</sup>婦<sup>ハ</sup>紡績<sup>ハ</sup>の 左ノ廻リ  
 宿<sup>ト</sup>身<sup>ト</sup>を<sup>シ</sup>人<sup>ト</sup>を<sup>シ</sup>助<sup>ケ</sup>くる<sup>ハ</sup>業<sup>ト</sup>を ハツケキ  
 の<sup>ト</sup>残<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>目<sup>ト</sup>よ<sup>シ</sup>入<sup>リ</sup>ぬ<sup>ル</sup>心<sup>ト</sup>を 小左右  
 人の<sup>ト</sup>い<sup>ハ</sup>らん<sup>ト</sup>世<sup>ト</sup>を<sup>シ</sup>空<sup>ト</sup>蟬<sup>ト</sup>乃 キコミ  
 左<sup>ノ</sup>拍<sup>子</sup>子<sup>ツ</sup> 左ノ袖ヲ見左ノ方ノ行  
 から<sup>テ</sup>衣<sup>ヲ</sup>拂<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ル</sup>袖<sup>ト</sup>は<sup>シ</sup> 肩上ケ股ニ面ノ上ヲ見乍出(左右ハキコミ)  
 夜<sup>ノ</sup>香<sup>ノ</sup>の<sup>ト</sup>月<sup>ト</sup>は<sup>シ</sup>埋<sup>レ</sup>ぬ<sup>ル</sup>ち<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup> キコミ  
 人の<sup>ト</sup>強<sup>ク</sup>も<sup>シ</sup>千<sup>ト</sup>年<sup>ト</sup>業<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>礎<sup>ト</sup> 右ノ小廻リ  
 声<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>志<sup>ト</sup>で<sup>シ</sup>お<sup>ハ</sup>唯<sup>ト</sup>山<sup>ト</sup>姥<sup>ト</sup>が<sup>シ</sup>業<sup>ト</sup>な<sup>シ</sup> 両手ヲ合

や<sup>ハ</sup>都<sup>ト</sup>は<sup>シ</sup>海<sup>ト</sup>り<sup>テ</sup>世<sup>ト</sup>は<sup>シ</sup> カイ込サシ  
 強<sup>ト</sup>も<sup>シ</sup>思<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup> サシ角ノ行  
 う<sup>チ</sup>捨<sup>テ</sup>は<sup>シ</sup>何<sup>ト</sup>事<sup>ト</sup>も<sup>シ</sup> 弱カガサシ  
 山<sup>ト</sup>姥<sup>ト</sup>が<sup>シ</sup>山<sup>ト</sup>廻<sup>リ</sup>す<sup>ハ</sup> 左ノ

同切

望<sup>ミ</sup>海<sup>ト</sup> 弱ノ見  
 嘆<sup>ク</sup> 立テ  
 山<sup>ト</sup>廻<sup>リ</sup> シカケヒラキ  
 秋<sup>ト</sup> 日  
 月<sup>ト</sup> 弱左ノ肩ノ上ケ



執心セラキを清シラキくはつ小左右佛シラキ新シラキはシラキ遠シラキく  
 娘シラキしシラキれシラキ今シラキのシラキあシラキやシラキ一シラキ上シラキ思シラキひシラキせシラキる  
大左右一シラキ言シラキのシラキ日シラキ起シラキほシラキハシラキ痛シラキかシラキとシラキなシラキりシラキつ  
キコシ續シラキさシラキるシラキハシラキ是シラキ薬シラキナシラキリシラキとシラキ古シラキ人シラキのシラキあシラキら  
セラキおシラキれシラキだシラキおシラキもシラキりシラキ思シラキをシラキしシラキ意シラキをシラキき  
右ノ方ヲ見廻シ草シラキもシラキ任シラキ者シラキのシラキあシラキらシラキ生シラキふシラキとシラキ花  
サシ角ハ行なシラキれシラキはシラキなシラキおシラキやシラキせシラキはシラキはシラキ我シラキ心シラキ契シラキり  
題リ何シラキさシラキ衣シラキのシラキ原シラキ思シラキひシラキ執シラキ心シラキをシラキ助シラキけ  
 強シラキべシラキや

同切

箱カサシ引シラキ面シラキ白シラキやシラキ紫シラキのシラキ音シラキ一シラキ声シラキはシラキ誘シラキ  
大左右引シラキせシラキらシラキれシラキてシラキ花シラキのシラキ陰シラキふシラキ来シラキたシラキら  
上我シラキがシラキ清シラキ法シラキよシラキ引シラキ誘シラキりシラキれシラキとシラキ喚シラキ  
キコシヒラキ一シラキ今シラキ目シラキ前シラキよシラキ立シラキまシラキりシラキおシラキ籠シラキ  
左ノ廻リのシラキ袖シラキはシラキアシラキをシラキ女シラキのシラキまシラキとシラキまシラキおシラキる  
正面ノ先ハ出作物ヲ見怒シラキまシラキ意シラキれシラキ樂シラキのシラキ報シラキうシラキけシラキなシラキあ  
ロクニ居我シラキがシラキ様シラキやシラキあシラキらシラキ思シラキへシラキばシラキ古シラキへシラキと  
脚ハ向一シラキ語シラキらシラキハシラキ程シラキもシラキ執シラキ心シラキをシラキぞシラキと

扇左肩へ上ケ見 サシ角へ行  
 於せば月も入り ツキト 昔樂の昔ハ ヨリ  
 松風もなごころ 角ニ身ヲ直シ大小ノ前へ行 有りし筈ハ  
 廻り返りセラキ 右へ身ヲ入  
 形添ふ面 片シトメ 然だらりや 片シトメ 殊る  
一四八 舞

玉葛切

扇尻キ唄フ 立チ  
 上 実安孰のまき 日 愛かれ 立チ  
二面ノ出 シカケ ヒラキ少シ跡ニサカリ  
 迷ひもよ 上ヨ見乍左へ 夢ありける  
肩ヲ上ケ二面ノ先へ出下シ(滝ノ扇)  
 人をむけ 下ヲサシワケ右へ小廻リ せの山お後 ナメ 烈しく  
 廻り 下ヲサシワケ右へ小廻リ  
 扇で ナメ 涙も ナメ ちり ナメ ぐ ナメ ぶ

秋の葉も 扇キ合 糸も 左シホリ 打果ね 左シホリ 恨め  
一セキ や 下ヲサシワケ 恨 手下シ ん 手下シ 人 手下シ とも 手下シ 世 手下シ を 手下シ 恨 手下シ め  
返シ 日 右ノ拍子六ツ大左右 思 日 ひ 日 お 日 も 日 たら 日 唯 日 糸 日 下

川の 鞍 寺コシ ひ 寺コシ の 羅 寺コシ や 寺コシ が 寺コシ ず 寺コシ ぐ 寺コシ の  
 う 寺コシ き 寺コシ 名 寺コシ お 寺コシ ま 寺コシ じ 寺コシ を 寺コシ 憾 寺コシ 悔 寺コシ の 寺コシ 有 寺コシ  
サシ角へ行 振 サシ角へ行 威 サシ角へ行 ハ サシ角へ行 痛 サシ角へ行 久 サシ角へ行 ー サシ角へ行 ヤ サシ角へ行 岩 サシ角へ行 も サシ角へ行 ら サシ角へ行 水 サシ角へ行 の  
扇頂へアテ面クモラシ 思 扇頂へアテ面クモラシ ひ 扇頂へアテ面クモラシ よ 扇頂へアテ面クモラシ 個 扇頂へアテ面クモラシ び 扇頂へアテ面クモラシ あ 扇頂へアテ面クモラシ る 扇頂へアテ面クモラシ ひ 扇頂へアテ面クモラシ を 扇頂へアテ面クモラシ 焦 扇頂へアテ面クモラシ ら 扇頂へアテ面クモラシ ぬ  
向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 身 向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 より 向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 あ 向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 る 向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 玉 向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 と 向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 ぶ 向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 ら 向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 ま 向両手ヲ上ケ先迄出扇ニ左ノ手ヲ添ハ拍子四ツ踏 ず  
扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 色 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 め 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 ぞ 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 も 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 裳 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 も 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 乱 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 き 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 け 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 ゝ 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 舞 扇左へ取殿方ニハネ(竹林扇)出 も

照前へ行扇内折込白カクシ 真中迄下リ  
 よしあや。袖くしやとび安枕  
扇右へ取 サシ角へ行 角ニテ身ヲ直シ  
 をひらがへまむ。如の玉着  
大が前へ行 廻り返シヒラキ  
 大が前へ行 廻り返シヒラキ  
右へ身ヲ入 先シトメ  
 後路を覚ふ。利

浮舟切

此扇尻キ 吠フ  
 此二面へ出 犬急シカケ 犬急の理立ナ 日 世右ヲウケ  
ヒラキ 急東方へ扇ヲ上ヒラキ見 ならず。暇シカケ ても我シカケ 心シカケ びシカケ といシカケ けシカケ ば  
サシ角へ行 右へ小廻リ 扇ヲ拍カクシ  
 急オコタ ならず。暇シカケ ても我シカケ 心シカケ びシカケ といシカケ けシカケ ば  
 急オコタ ならず。暇シカケ ても我シカケ 心シカケ びシカケ といシカケ けシカケ ば

左へ廻リ 真中ニテ下ニ居 扇腰ニテ  
 潤小運ぶ合掌 ぎ合掌 後合掌 の世合掌 も合掌 転合掌  
合掌 手下シ立テ右へ拍子六 左右ニテ出  
 此サコ 急サコ 心サコ 日サコ 初サコ 漸サコ の便サコ 小  
右へ廻リ ヒラキ  
 横川がヒラキ 滑ヒラキ ぎヒラキ よヒラキ へヒラキ 付ヒラキ らヒラキ れヒラキ づヒラキ  
右へ廻リ ヒラキ  
 小舟ヒラキ にヒラキ 伴ヒラキ あヒラキ ひヒラキ 行ヒラキ りヒラキ 加ヒラキ 持ヒラキ してヒラキ  
右へ身ヲ入 上ヲ見  
 物の怪退右へ身ヲ入 し右へ身ヲ入 小右へ身ヲ入 夏右へ身ヲ入 の世右へ身ヲ入 小右へ身ヲ入 狂右へ身ヲ入 若右へ身ヲ入  
二足程出  
 小舟二足程出 事二足程出 だ二足程出 後二足程出 小二足程出 舟二足程出 へ二足程出 入二足程出 給二足程出 小  
取ハカイ込サシ出  
 今取ハカイ込サシ出 小取ハカイ込サシ出 舟取ハカイ込サシ出 へ取ハカイ込サシ出 入取ハカイ込サシ出 給取ハカイ込サシ出 小

と思ひしに思ひの程は孰れ  
右へ拍子六ツ踏  
たれて影も消えさるる娘よ  
サシ右へ廻リ  
いふと思へば影さの横川よ  
大小ノ前へ行 廻リ返ミヒラキ  
くも思へば影さの横川よ  
身ヲ入 片シトメ  
か嵐や波をらん

天鼓切

面白や味も実病ニ  
ツ中 弱兵手唄ア  
秋風  
橋掛、松ヲ見  
楽なれや松の声、柳葉を拂  
肩左ノ肩へ上ケ見  
いで月も涼しく星も相違ふ  
手下ニ角へ行

空なれや鳥鶴の橋の毛とに  
左へ廻リ  
紅糸を巻きき二星の空を  
右へ出カケ  
およ風吹ゆらふ夜も交る夜  
左ニテサシ出  
波もほもななりぬ人目の水は  
右ニテサシ右跡ニツ廻リ  
南星は北は拱の天の海通を  
船上ケニ面へ出ヲロシ下ニ店  
の浪も立流よや呂水の橋乃  
上ヲ見  
月小唄き水も戯き波を穿  
左ノ袖出シ見(画取心)拍子四ツ踏  
ち袖をえまや歌花の香も  
左へ廻リ  
時ありて互交れ一天邊も  
た



大小前三拍子小廻り東方シカケ扇上ヒラキ見  
 多ハハ声不のぐとねのけ  
一面ヲ見 右拍子六ツ  
 志らむ時の較。数ハ六ツの樹の  
扇上四面作物太鼓一ツチ  
 声よ。又チ奇りと。提り後り  
扇左取ナカラ左小廻リシテハチ扇ヲ太鼓ヲ其終跡ヘ  
 ちさチ奇りテ提り後り又不  
サカリ右小廻リ下居枕ノ扇立チ扇ヲ入片シトメ  
 海とトそなりふをるを

枕意童切

扇上見  
 引キモ形ハちび然業の義に日立ナ  
一面出シカケ ヒラキ  
 悉く形らるるなればふや常もかう  
ヒラキ 右廻リ  
 一く清りも海ひ瀧も水  
シカケ

たりや谷瀧の水の所ハ都縣  
 のふれをとと業を流き  
股面出 下居 右下ラ扇ヲ一ツ汲ミ  
 泉ハ元来海をきバ汲ミてハ  
立チ 股前行(動心)足トメ 左廻リ作  
 勤めもくひくハ流し我身も  
ユウケン心ト心 心面向扇左扇アゲ上ラ見  
 昏なりや月ハ音のらるを  
手下シ跡へく字ニサガリ  
 ち舞よむたれてよ海くよら  
心面先出下ニ居扇平ニ左キラカケ  
 一くと深ひ奇りと花ををる  
西手ニ持心ニイタタキ枕下置心シキ  
 上げ裁きますりもあらなき  
右手見心シ  
 君の形と石根の葉をち  
心面見心シ 心面見心シ



歌をこぼさば夜もすがら

直シ 日ハ又おぼて明らけく

なりて寝ると思へば

かり日昼かと思へば

上ヲ見 日 春の花咲けバ

紅糸も交さく 日 夏を思へむ

昔も逢つる日 四季折々の目

前ふて 暮夏秋をが木紅葉

もす時は花さけり 面白や

俊やが上 新て時過頃されむ

又十年の栄をむもきて滅ハ

夏の中なれば 燈籠と尖果

て有けり 耶那の花れよ

眠りの夏は見えにけり

続編切

あしきとおもひぬ山の麓よ

たふく人の涙きかきあはに

いそんや年月思ひし沈む眼

の救<sup>ヒラキ</sup>積つて<sup>下</sup>執心<sup>上ケ</sup>の鬼とな  
 るも<sup>左足引手ヲ下シ</sup>焚<sup>コトハリ</sup>れ<sup>コトハリ</sup>や<sup>コトハリ</sup>た<sup>コトハリ</sup>いで<sup>コトハリ</sup>〜念<sup>コトハリ</sup>を  
 志らん<sup>コトハリ</sup>キ日<sup>コトハリ</sup>〜と<sup>コトハリ</sup>志<sup>コトハリ</sup>も<sup>コトハリ</sup>と<sup>コトハリ</sup>振<sup>コトハリ</sup>り  
 上げ<sup>コトハリ</sup>後<sup>コトハリ</sup>妻<sup>コトハリ</sup>の<sup>コトハリ</sup>髪<sup>コトハリ</sup>を<sup>コトハリ</sup>手<sup>コトハリ</sup>に<sup>コトハリ</sup>から<sup>コトハリ</sup>  
 お<sup>コトハリ</sup>い<sup>コトハリ</sup>〜<sup>コトハリ</sup>う<sup>コトハリ</sup>は<sup>コトハリ</sup>や<sup>コトハリ</sup>字<sup>コトハリ</sup>は<sup>コトハリ</sup>の<sup>コトハリ</sup>山<sup>コトハリ</sup>の<sup>コトハリ</sup>髪<sup>コトハリ</sup>  
 祝<sup>コトハリ</sup>も<sup>コトハリ</sup>も<sup>コトハリ</sup>分<sup>コトハリ</sup>ら<sup>コトハリ</sup>る<sup>コトハリ</sup>ら<sup>コトハリ</sup>世<sup>コトハリ</sup>は<sup>コトハリ</sup>一<sup>コトハリ</sup>因<sup>コトハリ</sup>果<sup>コトハリ</sup>  
 心<sup>コトハリ</sup>を<sup>コトハリ</sup>さ<sup>コトハリ</sup>り<sup>コトハリ</sup>今<sup>コトハリ</sup>更<sup>コトハリ</sup>さ<sup>コトハリ</sup>る<sup>コトハリ</sup>も<sup>コトハリ</sup>悔<sup>コトハリ</sup>  
 一<sup>コトハリ</sup>から<sup>コトハリ</sup>ら<sup>コトハリ</sup>ぬ<sup>コトハリ</sup>キ<sup>コトハリ</sup>徳<sup>コトハリ</sup>徳<sup>コトハリ</sup>り<sup>コトハリ</sup>よ<sup>コトハリ</sup>思<sup>コトハリ</sup>ひ  
 志<sup>コトハリ</sup>き<sup>コトハリ</sup>〜<sup>コトハリ</sup>下<sup>コトハリ</sup>海<sup>コトハリ</sup>文<sup>コトハリ</sup>と<sup>コトハリ</sup>怒<sup>コトハリ</sup>め<sup>コトハリ</sup>〜<sup>コトハリ</sup>た<sup>コトハリ</sup>キ<sup>コトハリ</sup>

日<sup>下</sup>ト<sup>下</sup>手<sup>下</sup>ヲ<sup>下</sup>下<sup>下</sup>シ  
 左<sup>足</sup>引<sup>手</sup>作<sup>物</sup>見<sup>込</sup>〜其<sup>俵</sup>ス<sup>ラ</sup>〜ト<sup>出</sup>  
 と<sup>下</sup>作<sup>る</sup>花<sup>よ</sup>立<sup>芳</sup>り<sup>ら</sup>れ<sup>ど</sup>  
 お<sup>そ</sup>ろ<sup>ろ</sup>〜<sup>や</sup>幣<sup>帛</sup>〜<sup>三</sup>十<sup>も</sup>神<sup>シ</sup>  
 海<sup>に</sup>〜<sup>て</sup>魁<sup>魁</sup>を<sup>神</sup>の<sup>神</sup>の<sup>神</sup>  
 ら<sup>い</sup>〜<sup>や</sup>あ<sup>い</sup>〜<sup>と</sup>責<sup>強</sup>ふ  
 ぞ<sup>や</sup>〜<sup>獲</sup>立<sup>や</sup>思<sup>ふ</sup>〜<sup>素</sup>あ<sup>を</sup>む  
 取<sup>ら</sup>〜<sup>で</sup>あ<sup>ま</sup>〜<sup>と</sup>神<sup>に</sup>〜<sup>れ</sup>責<sup>を</sup>  
 影<sup>を</sup>〜<sup>思</sup>念<sup>の</sup>神<sup>を</sup>〜<sup>通</sup>力<sup>が</sup>自<sup>在</sup>  
 の<sup>勢</sup>〜<sup>終</sup>〜<sup>が</sup>も<sup>た</sup>〜<sup>と</sup>足<sup>弱</sup>

右へ小廻リニア右へ膝ツキロクニ居手下ニ腰ヲ立テ扇  
 車ヲ巻クニぐるりまふべき時扇を  
 逆ツキ左ノ手ヲ添作物ヲ見扇冥キ立チサシ角へ行  
 待べしやまづげば後ハ海へと  
 左へ廻リ  
 いよ声だりりハさだろふゆべ  
 服座ニテ身ヲカヘ大小ノ前へ行拍子ノリ込ニ扇左へ取  
 いよ声だるも吹入へる海へ目よ  
 (枕ノ扇)下ニ居立扇右へ取右へ身入片シトメ  
 見へぬ鬼とぞ成よき時

葵上

扇其俣唄 立チ四面ノ先へ出  
 いやいふ思ふとも。今さらたでハ  
 右足引下ニ居扇上テ衣ヲツキ  
 けよまづと。枕ヲ立寄リテと打  
 た 日既 中既 比よハとてまよりて。葵  
 立チ

涙もそ苦むとんまら 一足引衣ヲ  
 見込ミ 恨もハ有リ報い 日既 心テ柱ノ方へ行  
 不むらハ糸を焦がけ 思ひ フリ帰リ  
 衣ヲ見衣へツキサシ ステル ヒニキ作衣ヲシカト  
 知れや思ひ志まき 日既 怒めし 手下シ  
 見 比むやあら恨めしらのむや人  
 の恨みの深くして。其音に 四面へ出  
 泣くせ娘ふを。生まては世ふ 服四面ヲサシマワシ  
 跡へサカリ下扇冥キ  
 海へまよさば水くらたは海へ 四面へ出  
 扇カサシ左右ト面ツカイ面上テ下ヲ見直ニ衣ヲ見一足出  
 螢の影よりも光る君とぞ葵 手下シ



拍子ニソノ 女郎も霧の巻や花の縁よ  
右、廻リ 大前ニテ腹向  
合掌 うかみえたび給へ罪を深めて  
片シトメ あむ給へ

大江山

扇其終唄フ 引上 津波の安達が涼の縁よりを  
日立ナ 鬼薮ゆりよめが物を  
シカケ 濤がりり〜 愛ハ名を知らず大  
角ノ方ハサシツノ出 江山幾野の原ハ終なき天の  
見下左ハ 樽立英謝れ海大山の天狗

常座ニテ脇向 お我よ志〜 友ぞと志海  
真中一行  
下ニ居扇片キハ面ハ向ニ扇ニ左ノ手ヲ添(酌ニ受ル形)  
立チ 酒を吞  
扇タノ ふよ〜 板お着ハ何ぞ此  
右ラサソイ 秋の山草 枯葉蒨草  
右、廻リ くれも〜 紫菀とよハ何  
小左右 ちらん鬼の志を草と誰が附  
扇片キ 名成も 冥城 げに穢  
大左右  
キコミ 丹後丹波の境なる鬼が城も  
ヒラキ 程を〜 ね 飲酒ハ  
腹向  
サシ角ハ行





左ノ手ノ爪ヲ見  
爪を磨きたるにハ眼をつらんで

サシ角へ行

志むむらをも叫ぶんとすれど

右ハ小廻リ

肩負ハアテ

左ハ廻リ

猛火の煙よむせんそをば

得ぬばねりどりを殺し科や

心通ハニツケワツシ

らん遊んとまねど立得ぬハ

ロクニ居

面ヲ伏ス

面直シ

羽振ぶれば報ひかたうらまハ

地上

眼ハ向

久川を流しとなり日我ハ

立テ四面ハ出

雄子とぞ成りたる遊れ

肩左ノ肩ハ

がさの？ 狩場の吹雪よ空か

アケ上ヲ見下ラサシニテ桂ノ方へ行拍子踏ナガラハ面ハ向

怖し地を走る火倉にまら

ユラケシシ作左ハ廻リ

まゝあらむらゝあまらぶ

眼ハカノ込サシ出

安き膝あはれの若しむを

拍子ニツ

右ハ廻リ作肩タニ

あけてたべやあ後あまら

眼ハ合掌

右ハ身ヲ入

まぶやあ僧といふをと思へむ

中ハシトメ

矢よけ

### 船橋

通ひ別々の船橋の橋へ渡る

肩完唄フ

立チ

夜の月も静まりたり



終

